

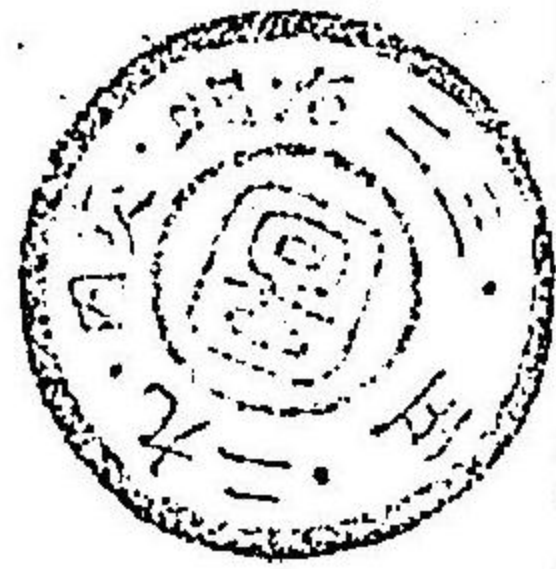
1123722/23

會計法釋義

北島兼弘
石渡傳藏
德山銓郎
合著

東京

博聞社藏版



叙

讀法文者苦字辭釋自茲為
然至物說在理論多實踐或有
所不適有為從之者踐者亦或
失理之有是不為從而物說能得

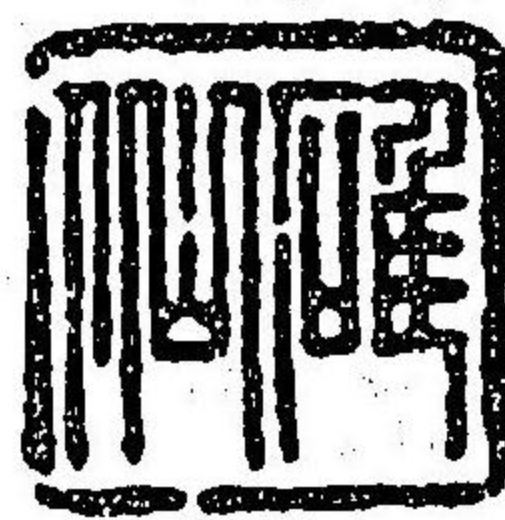
其出焉者其在於書字謹惟憲歲
二月欽定憲法也先勅示會計
法言簡而旨深以若不善究其可
由知其所向則見解至公訟不勉
歧路彷徨之憾抑會計者法

之國孰有年於茲主利便之德
動泥於名而規拘於法文之策
則之經治世其所以表疑議也
北島石濤德山之子奉職於會
計既久於事務亦熟自與法

始發而來相謀攻習不怠參微
內外照校新舊而遂編此書
名曰會計法釋義讀若能寫
而通之則指行宜既請地理
且得標識庶幾不謬甚步武

四

欽因勸三子上之梓傳并卷首
明隆平三年二月六日立請識并書



五

會計法釋義目次

第一章	總則	一
第一條		同
第二條		七
第三條		九
第四條		十一
第二章	豫算	十三
第五條		同
第六條		十八
第七條		二十四
第八條		二十九
目次		一

一
同
七
九
十一
十三
同
十八
二十四
二十九
一

第九條	三
第三章 收入	三十二丁
第十條	三十四丁
第四章 支出	同丁
第十一條	三十八丁
第十二條	同丁
第十三條	四十丁
第十四條	四十三丁
第十五條	四十九丁
第五章 決算	五十二丁
第十六條	六十一丁
第十七條	同丁
	六十五丁

第六章 期滿免除	七十一丁
第十八條	同丁
第十九條	七十七丁
第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入	七十八丁
第二十條	同丁
第二十一條	八十丁
第二十二條	八十六丁
第二十三條	八十八丁
第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借	九十四丁
第二十四條	同丁
目次	三

第二十五條	百八丁
第九章 出納官吏	百十丁
第二十六條	同丁
第二十七條	百二十四丁
第二十八條	百二十七丁
第二十九條	百三十二丁
第十章 雜則	同丁
第三十條	同丁
第三十一條	百三十四丁
第三十二章 附則	百三十五丁
第三十二條	百三十六丁
第三十三條	同丁

附錄

○國稅徵收法	百三十七丁
○國稅徵收法施行細則	百四十丁
○沖繩縣及東京府管轄小笠原島等ノ國稅徵收方	百五十六丁
○諸收入收納取扱順序	同丁
○收入官吏ノ監守證取扱手續	百六十四丁
○前金渡概算ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程	百六十五丁
○會計主務官心得	百六十九丁
○出納官吏現金取扱規則	百八十八丁
○出納官吏保管金引出切符書式	百九十二丁
○出納官吏身元保證金納付方	百九十六丁
○出納官吏身元保證金取扱規則	百九十七丁

目次

五

○金庫規則	六
○金庫出納事務規程	二百一丁
○金庫ノ月計對照表取扱方	二百三丁
○金庫出納證明規程	二百三十六丁
○金庫検査規程	同 丁
○保管金規則	二百三十八丁
○政府保管ノ義務ヲ有スル公有私有金取扱方	二百四十四丁
○明治二十二年度會計特別整理方	二百四十五丁
○會計検査院法	同 丁
○會計検査院事務章程	二百四十八丁
○整理公債ニ關スル特別會計法	二百五十三丁
○北海道及ヒ町村制ヲ施行セサル島嶼アル各縣國稅徵收	二百六十一丁

手續

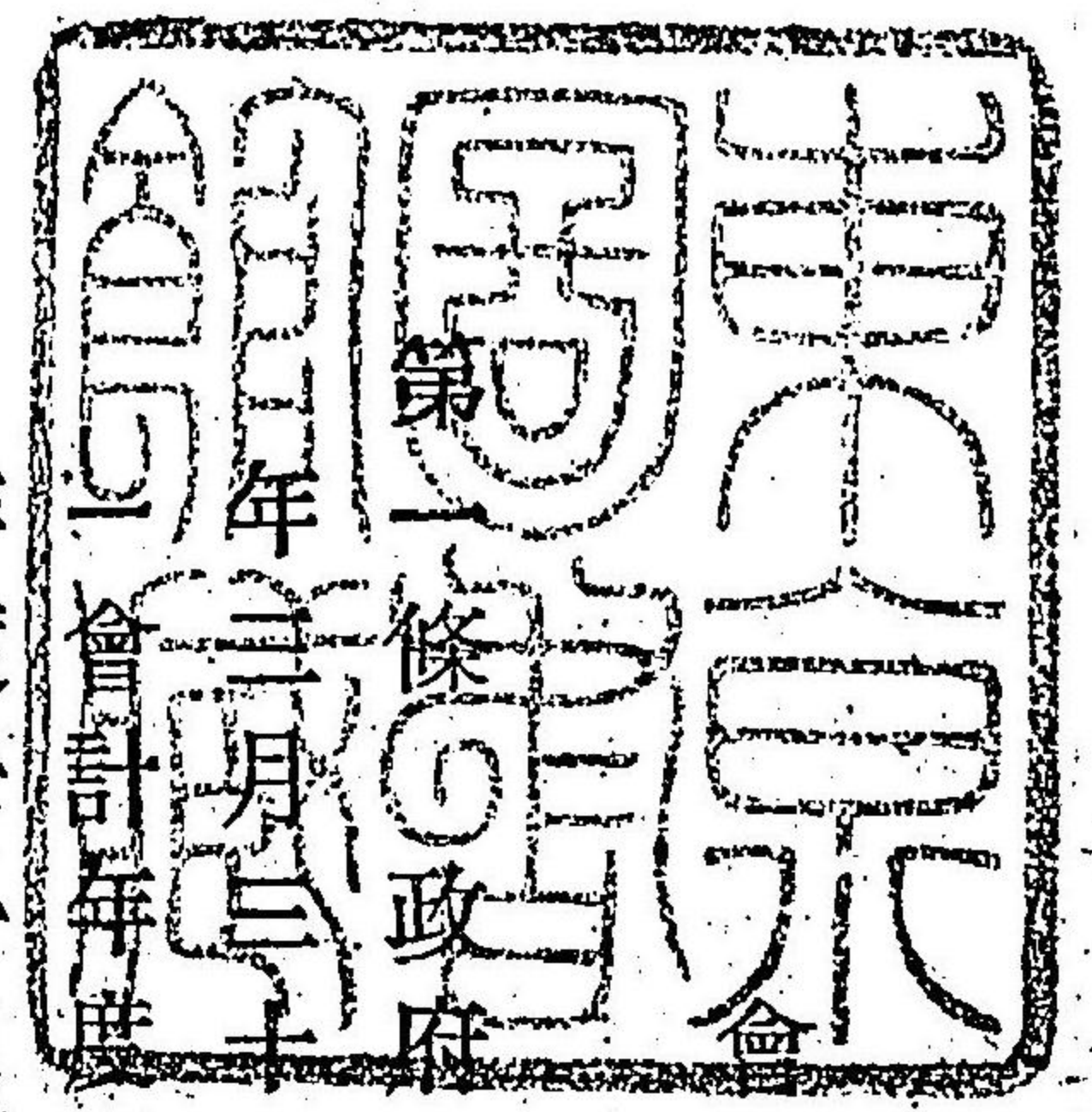
○國債ニ關スル仕拂及收入金決算	二百六十二丁
○大藏省訓令第二十六號	二百六十三丁
○大藏省訓令第二十七號	二百六十四丁
○大藏省訓令第二十八號	二百六十六丁
○大藏省訓令第二十九號	二百六十八丁
○大藏省訓令第三十號	二百六十九丁
○大藏省訓令第三十三號	二百七十丁
○大藏省訓令第三十四號	同 丁
○内務省訓令第九號	二百七十三丁
○内務省訓令第十號	二百七十五丁
○作業會計法	二百七十六丁
	二百八十丁

目次

○陸軍作業會計法	二百八十一丁
○鎮守府造船材料資金會計法	二百八十三丁
○官設鐵道會計法	二百八十四丁
○中央備荒儲蓄金、預金局預金、郵便貯金預所貯金、郵便爲替金特別會計法	二百八十六丁
○大藏省訓令第三十七號	二百八十七丁
○大藏省訓令第四十二號	二百八十八丁
○大藏省訓令第四十四號	三百丁
○紙幣交換基金特別會計法	三百十丁
○鑛店銀行紙幣交換基金特別會計法	同丁
○官立學校及圖書館會計法	三百十一丁
○官立學校及圖書館會計規則	三百十二丁

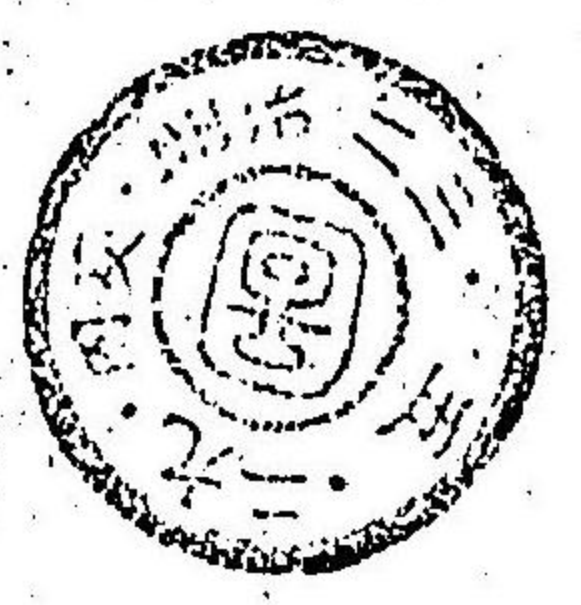
會計法釋義

北島兼弘
石渡傳藏 合著
德山銓一郎



會計法
第一章 總則
第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌
三月三十一日ニ終ル
所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌
年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

本條ハ會計年度ノ分界ト出納整理ノ期限ヲ示シタルモノナリ
年度ノ分界ハ會計上第一ノ必要ニシテ若シ之ナケレハ會計ノ整
第一章 總則



理監督ニ道ナキナリ故ニ本條先ツ此分界ヲ定メ毎年四月ヨリ翌年三月ニ至ル一周年ヲ以テ一期限トス蓋シ會計年度ハ必スシモ毎一年ニ限ルニアラス或ハ每半年若クハ毎二三年トスルヲ得ヘシ然レモ歲入歳出トモニ多クハ一年ヲ以テ巡還スレハ各國トモニ滿一年トスルヲ例トス即チ澳國露國瑞國白國等ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終リ英國獨國丁國等ハ四月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終リ米國伊國西國葡國等ハ七月一日ニ始マリ六月三十日ニ終ル

會計年度ノ開期ハ收入最モ多キ時期ナラサルヘカラス若シ年度ノ始メニ國庫ノ資金不足スルトキハ大藏省證券ノ發行ヲ要スル多クシテ經費ヲ増加スルノ恐レアレモ始メヨリ多額ノ資金ヲ有スルトキハ運轉上ニ便ナルノミナラス國債元金ノ如キ年度ノ始

メニ支出シ了リ爲メニ利子ヲ節約シ得ルカ如キノ利アリ本邦地租ノ第六期及ヒ酒造稅ノ第一期ハ四月中ニ國庫ニ入ルナリ又年度ノ開期ト議會ニ於ケル豫算議定ノ時ト隔離セサルヲモ要用ナリトス若シ豫算ノ議定ニシテ年度開期ヲ離ルハ遠キトキハ精確ナル豫算ヲ得ルヲカタク實施ニ至リ増額流用ヲ要スルヲ多カルヘシ帝國議會ノ開期ハ未定ナレモ若シ前年ノ十一月頃ナラシニハ年度ノ開期ト甚々遠カラステ豫算ノ精確ヲ得ヘシ出納事務ノ完結トハ計算ノ完結ヲ云フナリ蓋シ先ツ仕拂命令ヲ止メサレハ金庫ヲ閉鎖スル能ハス金庫ヲ閉鎖セサレハ計算ヲ完結スル能ハス故ニ會計規則ハ其第四十四條ニ仕拂命令ノ發行ヲ翌年度六月三十日ニ限リ第三條ニ金庫ノ閉鎖ヲ翌年度八月三十一日ニ限リ又第百十九條ニ年度經過後八ヶ月ノ末日ニ於テ大藏

省ニ備ヘタル主計簿締切りノイヲ規定シテ之ヲ三段ニ分テリ此
 ノ如ク段階ヲ經ルニアラサレハ一時ニ完結スルヲ難シ本條ニ悉
 皆完結トアルハ此意ヲ示スモノニシテ漸次ニ整理シ十一月三十
 日ニ至リ一切完了スヘキヲ云フナリ此期限ハ會計ノ整理ニ缺ク
 ヘカラサルモノニシテ若シコレナケレハ會計上ノ混雜ヲ生スル
 一甚シク佛國ニ於テナボレオン第一世ノキ一年度ノ支拂ヲ完結
 スルニ十年ノ歲月ヲ要セシイアリシト云フ
 參看

會計規則 明治二十二年四月三十日勅令第六十號

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

- 第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ニ屬スル年度
- 第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額

告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領
 收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

- 第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬
 スル年度
- 第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタ
 ル日ノ屬スル年度
- 第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタ
 ル日ノ屬スル年度
- 第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契
 約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ

契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ
定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命

令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發

スルハ翌年度六月三十日限リトス

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ノ要求ヲ爲スハ翌年

度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌

年度八月三十一日限リトス

第一百十九條 各年度經過後八ヶ月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ

會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切

ルヘシ

第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ

經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

本條ハ歳入歳出ノ性質及其歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘキヲ
示シタルモノナリ

歳入豫算ニ總歳入純歳入ノ二法アリ純歳入トハ例ヘハ租稅中ヨ
リ徵稅費ヲ扣除シテ其餘ヲ歳入トスルカ如キ之レナリ純歳入ノ
法ハ往古歐洲ニ於テ行ハレタル所ナレトモ此法ニテハ歳入歳出共
ニ一部分ヲ見ル能ハサルノ不便アリ故ニ財政ノ宜シキヲ得セシ
ムルニハ總歳入ノ法ニ依リ徵稅費ノ如キハ之ヲ歳出ニ入ルハニ
如クハナシ本條一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トスル
トハ此總歳入ノ法ニ據レルモノナリ

又豫算書ノ調製ニ歳入歳出ノ性質ニ因リ分テ數個ノ豫算書トナスト一切ノ收支ヲ合シテ一個ノ豫算書トナストノ二法アリ然ルニ豫算ヲ數個ニ分ツトキハ歳計ノ全体ヲ見ルニ若シ會計ノ監督上不完全アルヲ免カレス本條總豫算ニ編入スヘシトハ後法ヲ取レルモノナリ

既ニ一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ其歳入歳出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシトセハ凡ソ政府ノ收入支出ハ悉皆總豫算ニ掲ケ決シテ漏ス所アルナシ故ニ一個ノ豫算書ヲ繕ケハ直ニ歳計ノ全体ヲ觀察スルヲ得ヘキモノトス但シ特別ノ須要ニ因リ本法第三十條ニ依リ特別會計ヲ設置セルモノニ在ツテハ此限りニアラサルナリ
ホリコト氏豫算ノ定義ヲ示シテ云ク豫算トハ一定ツ年月間ノ收

支ヲ豫定スル所ノモノニシテ受納スヘキ收入ト支出スヘキ經費トノ比較計算ナリト蓋シ一個人ニアツテハ毎年ノ收支大差ナクシテ豫算ヲ必要トセサルモ政府ノ收支ハ巨大ニシテ僅カニ計算ヲ誤ルモ忽チ多額ノ差違ヲ生スヘク一己人ノ收支ハ其痛痒ヲ感スルヲ直接ナルカ故ニ節儉スルヲ容易ナレトモ政府ノ收支ニ在ツテハ之レニ異ナリ其痛痒ヲ感スルヲ直接ナラスシテ浪費シ易キノ恐レアリ故ニ豫メ制限スル所ナカルヘカラス此レ政府ノ歳計ニ豫算ヲ必要トスル所以ナリ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ

他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

本條ハ各年度ノ定額ハ其年度ニ屬スヘキ經費支辨ノ爲メニノミ供シ他年度ニ屬スヘキ經費ノ支辨ニ供スヘカラサルヲ示シタ

ルモノナリ

若シ一ノ年度ノ定額ヲ以テ他ノ年度ノ經費ニ充ツルトキハ會計年度及ヒ年度所屬ヲ定ムルノ目的全ク消滅シ豫算ノ議定モ其効ナク徒勞ニ屬スヘシ但シ過年度支出ノ如キ法律規則ニ據リ支出年度ヲ更メタルモノハ本條ノ限リニアラサルナリ

參看

會計規則

第六十條 各省大臣過年度ニ屬スル經費ヲ支出セントスルトキハ其金額及其所屬年度ノ豫算ニ定メタル區分年度支出ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ翌月十日以内ニ之レヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第六十一條 前條ニ據リ大藏大臣ノ承認ヲ經タル經費ヲ仕拂フ爲メ各省大臣ハ其承認ヲ經タル年度ノ各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

本條ハ法律勅令ニ由ルニアラサレハ別途ノ資金ヲ有スヘカラザルヲ示シタルモノナリ
抑モ法律勅令ヲ以テ許シタル資金ノ外ハ何等ノ名義何等ノ目的

ヲ問ハス一切其所有ヲ禁スルハ財政ノ秩序ヲ正確ニシ監督ノ効
 驗ヲ全フセンカ爲メニシテ各廳ノ歳出ハ豫算ノ定ムル所ニ據リ
 大藏省之ヲ支給シ各廳ニ於テ收入シタル歳入ハ大藏省ヘ納入ス
 ルヲ本法第十二條第二項及第十三條ニ規定スル所ニシテ此ノ他
 各廳ニ於テ收支スヘキ資金ヲ有スルノ必要モ理由モナキナリ往
 時佛國關稅本局ニ一ノ基金アリ大藏大臣議會共ニ之ヲ知ラス此
 ノ基金ヲ運轉利用シ其收入頗ル多ク局内ノ官吏並ニ諸部長ハ每
 年各三萬フラング乃至三十萬フラングノ割賦ヲ得タリト云フ是
 レ官廳ノ隨意ニ資金ヲ有スルヨリ生スル惡弊ニシテ斯ル資金ヲ
 有シ豫算ノ不足ヲ補ヒ豫算外ノ支出ニ供シ或ハ交際費等ニ費消
 スルキハ豫算ノ規定モ其効ナキニ至ラン故ニ本條之ヲ禁シタル
 ナリ然レモ備荒儲蓄ノ如キ事業ノ性質ニ據リ特別資金ノ必要ア

ル場合ハ法律又ハ勅令ヲ以テ規定セラレ一般ノ會計ト同一ノ監
 督ニ屬セラレヘキモノナリ

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ

始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

本條ハ總豫算提出ノ期限ヲ示シタルモノナリ

前年トハ豫算所屬ノ年度ニ對シテ云フモノニシテ例ヘハ二十四
 年度ノ豫算ナレハ二十三年ノ議會ニ提出スルヲ云フナリ

ホリユ一氏曰ク元來歲計豫算ノ起ル所以ハ國民ハ租稅ノ徵收ヲ
 許否スルノ權ヲ有スルモノナリトスルニアリ方今諸國ニ於テ國
 會ヲ起シ政府ノ歳出入ヲ議セシムルモノハ天下ノ人皆ナ國民カ
 此權ヲ有スルモノト承認スルニ由ル故ニ其精細確實ナル歳出入

計算表ヲ以テ國民ノ代議士ニ示シ明カニ其然ル所以ノモノヲ知
 ラシメ以テ至當ノ同意ヲ得ント欲スルモノナリト國家財政ノ當
 否ハ直接ニ人民ノ利害ニ關スルカ故ニ憲法第六十四條ヲ以テ國
 家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキヲ規
 定セラレタルナリ且ツ英國ノ如キ豫算案ニ關シテ上下兩院ノ間
 其權限ヲ異ニシ上院ハ只下院ノ議決ヲ通過スルニ過キヌ我邦ニ
 於テハ兩院ノ間別ニ權限ヲ異ニスルナシト雖モ憲法第六十五條
 ニ豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシトアリテ幾分カ重キヲ衆議院
 ニ置カレタルカ如シ而シテ本條集會ノ始メニ提出スヘキヲ規
 定シタルハ一ニハ其調査ヲ十分ナラシメンカ爲メニシテ若シ其
 提出ニシテ閉會ニ際シ忽卒議決ヲ爲サヘル可ラサルカ如キテ
 ラハ豫算ノ當否ヲ誤リ國家ノ不幸ヲ來タスヘク又一ニハ其議決

遲延シ年度開期ニ際スル如キアラハ忽チ政務ノ執行ニ差支ヲ生
 スヘケレハナリ

豫算調製ノ順序ハ豫算ノ當否ニ關スルモノナレハ茲ニ之ヲ附記
 スヘシ

歲入歲出豫算概定順序 明治廿二年三月廿七日閣令第十二號

第一條 歲入ノ事務管理廳ハ毎年度歲入概算書ヲ調製シ前々
 年度三月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三條 各省大臣ハ毎年度歲出概算書ヲ調製シ前々年度三月
 三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五條 大藏大臣ハ各廳ノ歲入概算書及歲出概算書ヲ檢案シ
 歲入出ヲ對照調理シ歲入出總概算書ヲ調製シ前年度四月十
 五日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第七條 内閣ニ於テハ前年度四月三十日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ

第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費每項ノ概算額以内ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

參看

憲法 明治二十二年二月十一日

第六十四條 國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之

ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス
第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

○會計規則

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ノ首ニハ歳計全体ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成

ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ

第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ
總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度

ノ歳入歳出現計書

本條ハ總豫算ノ區分及參考書類ノイヲ示シタルモノナリ
歳入歳出共ニ永久ノ性質ヲ有スルモノヲ經常トシ永久ノ性質ヲ有セスシテ一年又ハ數年ニ止マルモノヲ臨時トス即チ租税及官有財産ノ收入ノ如キハ經常ノ歳入ニシテ官有財産拂下代ノ如キハ臨時ノ歳入ナリ又經常ノ歳出トハ帝室費國債費徵稅費裁判費其他一般ノ行政軍備等ノ費用ニシテ非常費土木建築費ノ如キハ臨時ノ歳出ナリトス
又歳入出ノ性質若クハ主管ヲ異ニシ獨立ヲ要スルモノヲ款トス例ヘハ租税ト官有財産ノ收入ヲ別款トシ帝室費ト國債費ト別款トスルカ如シ款中種類ヲ異ニスルモノヲ項トス例ヘハ租税中税種ヲ異ニスル毎ニ別項トシ又人員費ト物品費トヲ各別ニスル

カ如キ類ナリ
 歳入出ヲ經常臨時ノ二部ニ大別スルハ永久ノ費用ト一時ノ費用トヲ混同スルヲナク歳計ノ觀察ニ便ナラシメンカ爲メニシテ經常ノ歳入ヲ以テ經常ノ費用ヲ支辨シ臨時ノ歳入ヲ以テ臨時ノ費用ヲ支辨スヘシト云フニアラス畢竟計算上ノ便ニ出ツルニ過キサルモノナレハ如何ナルモノヲ以テ經常トシ如何ナルモノヲ以テ臨時トスヘキカハ本法別ニ規定アルナシ
 款項ハ所謂議決科目ナリ議決科目トハ議會カ其科目毎ニ一々採決スルモノニシテ政府カ隨意ニ其額ヲ動カス能ハサル所ノモノヲ云フ議決科目ノ粗大ニ失スルトキハ政府ノ爲メニ融通ノ便アレハ議會ノ監督十分ナラサルノ憂アリ又細目ニ過クルトキハ政府其不便ニ苦マン實ニ議決科目ノ大小ハ立法行政兩權ノ消長ニ

關スルモノナレハ實際ノ宜シキニ從ハサルヘカラスシテ豫メ規矩ヲ以テシ難シ會計規則第七條ニ歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシトアリテ法律ヲ以テ區分ヲ定メス一ニ大藏大臣ニ任スルモノハ蓋シ實際ノ宜シキヲ得ンカ爲メナリ
 豫定經費要求書ハ各省大臣其所管ノ經費ヲ要求センカ爲メニ其經費ノ必要ヲ證明スルモノナリ議決科目ハ細密ニ失スヘカラサルカ故ニ款項ノミニテハ經費ノ成立ヲ明カニスル能ハサルヘシ故ニ要求書ニ於テ各項中各目ノ明細ヲ記入スルモノトナシ議會ヲシテ詳細ノ點ヲ知ルヲ得セシメ以テ濫費ノ弊ナカラシム
 其年三月三十一日ニ終リタル年度ノ現計書トハ豫算書ノ年度ヨリ云ヘハ前々年度ニ當ル例ヘハ二十四年度ノ豫算ナレハ二十三年ノ議會ニ提出スルカ故ニ其年ノ三月三十一日ニ終リタル年度

ハ即チ二十二年度ナリ會計規則第十五條ニ八月三十一日ニ於ケル現計ヲ示スヘントアリテ即チ出納閉鎖ノ日ノ現計ナレハ殆ント決算ト同様ノモノナリ此ノ如キ最近年度ノ歳入歳出ノ形況ヲ知ルハ豫算調査上標準トナルモノニシテ此現計書ハ緊要ナル參考書ナリトス

參看

會計規則

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合

ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ付スヘシ

第十四條 會計法第六條ニ掲グル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從

ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ八月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

第二章 豫算

調定濟歲入額

收入濟歲入額

收入未濟歲入額

歲出之部

歲出豫算額

豫算決定後増加歲出額

仕拂命令濟歲出額

翌年度繰越額

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモ

ノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツ

ルモノトス

本條ハ憲法第六十九條ニ基キ豫算中ニ設クヘキ豫備費ノ區分ヲ示シタルモノナリ

避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フトハ豫算ニ見積リアリトイヘトモ實際ニ臨ミ不足アリタルキ之ヲ補足スルナリコノ補足ヲ得ルモノハ法律命令ノ結果ニ由リ生スル費途ニシテ他動ノ爲メニ不足ヲ生スルモノニ限ル例ヘハ官吏ノ死亡賜金囚徒食料或ハ被服費兵食費救助費等ノ如キ是ナリ會計規則第十八條ニヨレハ第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ定メラルコト、セラレタリ

第二章 豫算

豫算外ニ生シタル必要ノ費用トハ天災事變等豫知スヘカラサル
非常臨時ノ費途ヲ云フ

元來經費中ニ費額ノ豫定シ得ヘキモノト豫定シ得ヘカラサルモノ
トノ二種アリ國債費官吏俸給ノ類ハ豫定シ得ヘキモノナレ
恩給死亡賜金ノ如キハ受領ノ資格者死亡者ノ多少ニ由リ變動シ
テ豫定シ得ヘカラサルモノナリ殊ニ天變地異非常ノ事ニ至テハ
全ク人カヲ以テ前知スヘカラス此等豫定スヘカラサルモノ、爲
メニ豫算超過又ハ豫算外ノ支出ヲ生スルコトナカラシメントセハ
豫算ニ十分ナル餘裕ヲ見込ニ彼此流用シテ緩急相救ハサルヘカ
ラス此ノ如キハ平生豫算ヲ誇大ニシ無用ノ費目ヲモ設クルノ憂
アリ斯ル餘裕ヲ置カスシテ一切豫算超過又ハ豫算外ノ支出ヲ許
サ、ランカ政府之レカ不便ニ苦ムノミナラス大ニ社會ノ利益ヲ

損スルコトアルヘク又一々議會ヲ招集センカ或ハ其事急ニシテ招
集ノ暇ナキモノアラシテ或ハ其事小ニシテ招集ノ價ナキモノアラ
ン此レ豫備費ノ必要ヲ生スル所以ナリ但シ第一豫備ト第二豫備
トハ大ニ異ナル所アリ第二豫備ハ全ク前知スヘカラサル非常ノ
費途ニ充ツルモノナレハ豫算ト關係ナシト雖モ第一豫備ハ豫算
ノ不足ヲ補充スルモノナレハ豫算ノ精確ヲ得ルニ從ヒ其必要ヲ
減スヘキモノニシテ實際ニ於テ補充ノ途アルカ爲メニ豫算ヲ粗
漏ニスルガ如キ弊ヲ生セザランコトヲ要スルナリ

参看

憲法

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫
算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設ク

第二章 豫算

ヘシ

○會計規則

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ

支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫

×勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額

理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ

之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金

額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ付スヘ

シ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付

シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大

臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後

帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

本條ハ豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ議會ノ承諾ヲ求ムヘキヲ

ヲ示シタルモノナリ

年度經過後トアルハ豫備金支出ヲ一纏メニシテ提出センカ爲メ

ニシテ翌年例ヘハ二十三年度所屬ノモノナレハ二十四年ノ議會

第二章 豫算

ニ提出セラル、ナリ
 豫備金ハ豫算ヲ以テ定メタルモノナリト雖モ元ト支出ノ目的確
 立シタルモノニアラス眞ノ概算ヲ以テ政府ノ使用ニ供シタルモ
 ノナレハ議會ノ監督ヲ嚴ニセサレハ濫費ノ弊ヲ免カレス
 豫備金支出ハ第一豫備ニ在ツテハ概テ豫算ノ款項ニ超過シタル
 支出トナリ第二豫備ニ在ツテハ即チ豫算ノ外ニ生シタル支出タ
 リ豫算超過豫算外支出ハ議會ノ承諾ヲ得ヘキヲ憲法第六十四條
 第二項ニ規定スル所ニシテ本條ハ之ニ基ツキタルナリ然レモ憲
 法第六十四條第二項ノ意ハ豫備金支出ノ場合ノミナラス豫備金
 不足ノ場合ニモ之ニ依ルヲ得ヘシ但其事ノ輕重緩急如何ニ由リ
 テハ臨時ニ議會ヲ招集スルカ又ハ第七十條ニ依リ處分セラル、
 コトアルヘキナリ

參看

憲法

第六十四條 豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル
 支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
 第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ
 於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能
 ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其
 ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

會計規則

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣
 其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五ヶ月

第二章 豫算

以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 每年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

本條ハ大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ定ムヘキヲ示シタルモノナリ
最高額トハ一年度中ノ發行ヲ通算シタル合計高ヲ云フニアラス
一時ノ現發行最多額ヲ云フナリ
憲法第六十二條ニ國債ヲ起シ及ヒ豫算ニ定メタルモノヲ除ク外

國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシトアリ大藏省證券ハ短期公債ニシテ國庫ノ負擔トナルヘキモノナレハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘキヲ勿論ナリ而シテ大藏省證券ハ收入ニ先ツテ支出ヲ要スル場合ニ於テ出納上一時使用ノ爲メ發行シ其年度ノ歲入ヲ以テ消却スヘキモノナレハ歲入不相當ノ發行ヲ防禦スル爲メニ發行高ニ制限ヲ要スルナリ我國ノ經驗ニヨレハ最高額ヲ一千三百萬圓トスレハ通算發行高ハ七千餘萬圓以上ニ上ルヘシト云フ

參看

大藏省證券條例 明治十七年九月廿日第二十四號布告

第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二章 豫算

第二條 大藏省證券ハ無記名利附定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歳入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之レヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲ササルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第三章 收入

第十條 租税及其他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徴收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租税ヲ徴收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

本條ハ歳入ノ徴收收納ハ法律命令ノ規程ニ從フヘキヲ及ヒ其徴

收收納ハ當該官吏ノ資格アルモノナラサルヘカラサルコトヲ示シタルモノナリ

租税其他ノ歳入トハ一切ノ歳入ヲ云ヒ法律命令ノ規程トハ税法徴税法關稅條約諸收入諸手數料規則等凡テ賦課ノ方法收納ノ手續ヲ定メタルモノヲ云フ當該官吏ノ資格アルモノトハ歳入ヲ徴收收納スヘキ職權ヲ有スルモノヲ云フ

法律命令ノ規程ニ從フニアラサレハ一錢ノ歳入モ之ヲ徴收スルコトヲ得サルモノニシテ人民財産ノ安固ヲ保全センカ爲メニ必要ナルモノナリ又出納官吏ハ特種ノ責任ヲ負ヒ身元保證金ヲ納ムト雖他ノ官吏ハ然ラス故ニ之ヲシテ歳入ヲ收納スルヲ得サラシムルハ國庫ノ保安ヲ維持シ會計監督ノ道ヲ立ツルカ爲メナリ

參看

憲法

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル處ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

會計規則

第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付スヘシ

第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但外國及金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ收入ノ目的ヲ記入シタル別符付ノ領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付スヘシ

第二十八條 第二十六條ノ拂込ニ對シ金庫ヨリ交付シタル領收證ハ收入官吏ヨリ歲入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ送付シ別符ヲ切離セシメ其檢印ヲ受クヘシ

第三章 收入

第二十九條 納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ直接ニ金庫ニ納付シタルトキハ收入官吏ハ金庫ヨリ納人ニ交付シタル領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ヲ納人ニ返付スヘシ

第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添へ各省大臣ノ定メタル期限ニ之レヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作り之ニ必要ナル参照書類ヲ添へ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第十一條 每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

本條ハ政府經費ノ財源ヲ示シタルモノナリ

定額トハ豫算許可高ヲ云フ此ノ定額ニハ本法第二十一條及第二

十二條ニ由リ繰越シタル定額ヲモ包含スルモノト知ルヘシ

定額アルモ之ヲ支辨スル財源ナケレハ其用ヲ爲サス故ニ其年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スルナリ

佛國ノ如キ其稅法ハ一ケ年度限りニシテ毎年歳入豫算ノ議決ヲ

經サレハ其徵收ニ着手スル能ハス故ニ歳出豫算ノ議決ヲ經ルモ歳入豫算ノ議決ト其歳入ヲ以テ歳出ヲ支辨スルコトノ議決トヲ經

サレハ經費ノ支出ヲ爲スコトヲ得サレハ我國ニ於テハ租稅其他ノ收入トモ概テ永久ノ性質ヲ有スルカ故ニ議會ノ議決ナシト雖モ

徵收ニ差支ナク又本條ヲ以テ歳入ヲ直ニ歳出ノ支辨ニ供スルコト明許アルカ故ニ歳出豫算ノ議定ヲ經經費定額ノ定マリタル上

第四章 支出

ハ直ニ其支出ヲ爲スコトヲ得テ政府ノ爲メニハ大ニ便益ヲ得ルナリ

此ノ如ク歳入ヲ以テ歳出ヲ支辨シ其剩餘ヲ生スルトキハ本法第二十條ニ由ツテ處分シ若シ又不足ヲ生スルキハ國債其他歳入増加ノ方案ヲ立テサルヘカラサルナリ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

本條ハ豫算目的外ノ使用各項金額ノ流用及ヒ收入使用ノ禁止ヲ示シタルモノナリ

豫算ニ定メタル目的トハ必スシモ科目ニ付テ云フニアラス何カノ爲メ若干圓何カノ爲メニ若干圓ト其支出ノ必要ヲ生シタル一ノ費途ヲ云ヒ流用トハ甲科目定額ノ餘裕ヲ以テ乙科目定額ノ不足ニ充ツルヲ云フ

目的外ニ使用スルトハ例ヘハ僱外國人ノ俸給ニ充テタルモノヲ以テ他ノ官吏ノ俸給ニ支消シ本廳ノ建築費ニ充テタルモノヲ以テ土藏修繕ノ費用ニ費消スルカ如キ類之ナリ此ノ如キ目的外ノ支消ヲ爲スハ豫算議決ヲ無効ナラシムルモノニシテ本條ノ許サ、ル處ナリ或ハ豫算ニ定メタル目的トハ單ニ議決科目即チ項ヲ云フト解スルモノアリ此ノ說ニ從フキハ各項内ハ互ニ流用スルコトヲ得テ其範圍廣ク政府ノ爲メニハ便利ナルモ元來經費科目ノ組織タルヤ必スシモ一目的ノ爲メニ一科目ヲ設置スルモノニア

ラス一項内ニモ目的ノ異ナルモノアリ例ヘハ官吏ニ支給スル筆
 墨料ニ充テタルモノヲ以テ薪炭油等ニ支消シ外國行ノ手當ニ充
 テタルモノヲ以テ秘書官諸費ニ費消スルカ如キ之ナリ
 又各項金額ノ流用ヲ許サ、ルハ各項ハ議決科目ナレハ若シ之レ
 九流用ヲ許スルハ豫算決算上類別ヲ混同スルノミナラス全ク議
 會ノ議決ヲシテ無効ニ歸セシムルノ恐アルヲ以テナリ但シ一項
 内ニ於テ目的ノ違ハサルニ於テハ之レカ流用ヲ爲シ得ルモ豫備
 金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額
 ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得サルハ會計規則第十七條ノ規定ス
 ル所ナリ

國務大臣其所管ニ屬スル經費ハ定額ヲ以テ許可セラレ其定額ヲ
 使用セントセハ國庫ニ向ツテ仕拂命令ヲ發スヘキモノニシテ所
 管ノ收入ヲ國庫ニ納入セス隨意ニ之ヲ消費スルトキハ終ニ豫算
 超過又ハ豫算外支出ヲ生スルナリ

參看

會計規則

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ
 支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ
 國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル
 所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發
 セシムルコトヲ得

本條ハ定額使用ノ方法ヲ示シタルモノナリ
 仕拂命令トハ債主ニ現金仕拂ヲ執行スヘキコトヲ命令スル所ノ證

第四章 支出

券ニシテ即チ國庫ニ宛テタル手形ナリ此手形ノ仕拂ハルヘキ期限ハ其手形ヲ以テ仕拂フヘキ政府經費ノ屬スル年度經過後滿五ケ年ニシテ其間ハ世上ニ流通スルヲ得ヘキモノトス國務大臣ハ豫算ヲ以テ其所管ニ屬スル經費ノ定額ヲ許可セラルト雖モ現金ハ一錢モ附與セラル、イナクシテ其定額ヲ使用スル爲メニハ國庫ニ向テ仕拂命令ヲ發セシムルナリ定額ハ國務大臣ニ許可セラレタルモノナレハ國務大臣ノ外ニ定額使用ノ權ヲ有スルモノナシ然レモ國務大臣一切ノ仕拂ヲ一々命令スルハ事實行ハルヘカラサレハ本條但書ヲ以テ之ヲ他ノ官吏ニ委任スルノ便宜ヲ與ヘタルナリ例ヘハ內務省所管ノ府縣警視廳集治監經費ノ如キ內務大臣一々仕拂ヲ命令シ得ヘキニアラス故ニ知事總監典獄等ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシム但シ此委

任ノ場合ニハ行政豫算ヲ以テ定額ヲ分割セサルヘカラス會計規則ノ所謂仕拂豫算之レナリ國務大臣ニ現金ヲ交付セスシテ悉皆國庫ニ總攬スルモノハ現金運用上ノ便益ト國務大臣ヲシテ不法ノ仕拂ヲナサ、ラシメンカ爲メノ檢束上必要アルニ由ルナリ

参看

會計規則

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定セントスルトキハ其更定ヲ要ス

第四章 支出

ル金額理由ヲ詳具スル所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂フヘキ金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但俸給諸給恩給賞勳年金諸祿及定額拂切經費ノ仕拂ヲ爲ス

トキ支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘキ金額支出科目年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令ニハ支出ノ證據ニ必要ナル書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヨリ之ヲ會計主務官ニ交付スヘシ

第三十六條 會計主務官其仕拂命令ヲ正當ト認ムルトキハ之ニ(調定濟)ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂

命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 會計主務官前條ニ據リ仕拂命令ヲ不當ト認ム

ルトキハ其事由ヲ本屬大臣ニ申立ヘシ

本屬大臣會計主務官ノ申立ニ拘ハラズ仕拂命令ヲ發スヘ

キユトヲ命スルトキハ會計主務官ハ仕拂命令ニ(特命調定)

ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但仕拂命

令ノ金額若シ仕拂豫算額ニ超過スルトキハ本屬大臣ノ特

命ヲ受クト雖モ尙ホ大藏大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第三十八條 會計主務官仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタルト

キハ同時ニ金庫ニ案内仕拂命令ヲ送付スヘシ但第三十六

條但書ニ據リ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタル場合ニ於テモ

亦同シ

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發

スルハ翌年度六月三十日限リトス

仕拂命令委任規定 明治廿二年七月二日勅令第八十九號

第一條 各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂

命令ヲ發セシムルトキハ會計規則第十一條ニ據リ仕拂豫

算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第二條 委任ヲ受ケタル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令

ニ付責任ヲ有ス

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シ

テ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ國庫ニ於テ仕拂命令ニ對シ仕拂ノ執行ヲ爲スヘカラサル

場合ヲ示シタルモノナリ

前條ニ於テ國務大臣定額使用ノ方法ヲ定メ之ニ現金ヲ附與セサルモノハ一ハ不法ノ支出ヲ豫防センカ爲メニシテ國庫ノ仕拂執行ニ本條ノ制限ヲ加ナルニ由テ始テ其目的ヲ達スルヲ得ヘキモノナリ然レモ其果シテ法律命令ニ反スルヤ否國庫ニ於テ之ヲ調査スルハ仕拂命令面ニ依テ判斷スルノミナレハ本條ニ法律命令トアルモ重モニ豫算上又ハ仕拂命令ノ方式ニ關スルモノ、外ニ出テサルヘシ

參看

會計規則

第四十五條 金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五ヶ年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノ

第四章 支出

ハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ
第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ
其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發ス
ルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限り國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委
任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂
ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコ
トヲ得

本條ハ仕拂命令發行ノ制限ヲ示シタルモノナリ
正當ナル債主トハ政府ニ對シ勞力ヲ致シ又ハ物件ヲ供給スル等
其他事實上政府ヨリ仕拂ヲ受クヘキ權利ヲ有スルモノヲ云ヒ代
理人トハ委任ヲ受ケタル民法上ノ代理人ヲ云フ

正當ナル債主ニアラサルモノ即チ未タ債主權ノ確定セサルモノ
ニ仕拂ヲナシ或ハ正當ナル債主又ハ代理人ニアラサル他人ニ仕
拂ヲナシ其者ヨリ本人ニ拂渡サシムルコトヲ許スハ實際上便宜ノ
場合ナキニアラサルモ爲メニ政府ノ損失ヲ招クノ恐レアレハ本
條之ヲ防キタルナリ

工事請負人又ハ物品納入ノ如キ其工事ノ竣成又ハ物品ノ納濟ト
ナラサルトキハ未タ正當ナル債主トナラサルモノ、如ク解スル
モノアリ此說ハ本條ノ規定ト前金拂ノ禁止トヲ混シタルモノニ
シテ若シ此說ノ如クナラハ本法第廿五條ハ無用ノ長物トナルノ
ミナラス軍艦兵器彈藥ト雖モ一切前金拂ヲナス可ラサルモノト
ナルヘシ債主權ノ確定ト否トハ工事ノ既成未成物品ノ既納未納
ニ關セス一ニ契約ノ如何ニアリ但第二十五條ノ禁止アルカ故ニ

前金拂ノ契約ヲナシ得サルノミナリ
右ノ如ク仕拂命令ノ發行ヲ制限スト雖也如何ナル場合ヲ問ハス
一々正當債主ノ爲メノミトスルトキハ莫大ノ費用ヲ要シ事實行
ハルヘカラサル場合アリ此ノ如キ場合ニ於テハ主任ノ官吏又ハ
銀行ニ現金前渡ヲナシ之ヲシテ正當債主ニ仕拂ヲナサシムルハ
頗ル便法タルナリ現金前渡仕拂命令ハ未タ債主アラサルモノ又
ハ債主アルモ未タ仕拂ノ請求ナキモノニ對シテモ之ヲ發スルヲ
得テ全ク概算ヲ以テスルモノナレハ各債主ニ仕拂濟ノ後精算シ
テ剩餘アレハ定額ニ戻入シ不足アレハ追渡ヲナスヘキナリ
主任官吏トハ必スシモ部下ノ官吏ニ限ルニアラス總テ其事ヲ擔
任スル官吏ヲ云ヒ政府ノ命シタル銀行トハ各大臣ノ隨意ニ命ス
ルニアラスシテ特ニ其事ニ就テ政府ヨリ命令シタル銀行ヲ云フ

會計規則第四十二條ニ銀行ニ委任シテ仕拂ヲナサシムルハ國債
元利金拂ノ場合ニ限レリ

第一 國債ノ元利拂

各地ニ散在スル數多ノ債主ニ對シ一々仕拂命令ヲ發スルハ繁雜
ニシテ費用多シ銀行ニ委任スルノ簡便ナルニ如カサレハナリ現
今内國債ハ重モニ日本銀行ニ外國債ハ正金銀行ニ委任セリ

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

官船トハ政府ノ所有ニ屬スルモノ若クハ政府ニ於テ借入レタル
船舶ヲ云フ軍隊軍艦ノ如キ行軍航海中ハ金庫ノ設ケナキ地方ニ
至リ仕拂ヲナスコアルヘク然ラサルモ小拂ノ數多クシテ一々仕
拂命令ヲ發スルハ費用多クシテ繁雜ニ堪ヘサレハナリ但シ港灣
備付ノ小蒸氣船ノ如キハ本項ノ官船ニ包含セサルナリ

第四章 支出

第三 在外各廳ノ經費

在外各廳トハ外國ニ在ル公使館領事館在支那朝鮮郵便局等ヲ云フモノニシテ海外ニハ金庫ノ設置ナケレハナリ

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費トハ外國ニ出張セル官吏ノ俸給旅費手當若クハ外國ニ於テ購買スル諸物品ノ代價等ヲ云フ此等モ前項ト同シク現金前渡ノ外手段ナキモノナリ

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

金庫ノ設ケナキ僻陬ノ地方ナレハ此亦現金前渡ヲ便トスレハナリ

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

廳中雜費ノ總額一ヶ年五百圓未滿ノ如キ小官廳ニシテ一々仕拂命令ノ法ニ依ルハ却テ得失償ハサルヘケレハナリ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

測量等ノ爲メニ設ケル出張所ノ如キ所々ニ移轉スル事務所ノ經費ナレハ現金前渡ノ便ナルニ如カサレハナリ

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事トハ受負ニ付セスシテ政府自ら從事スル工事ヲ云フ此ノ如キ場合ニハ職工人夫賃等日々ノ小拂多クシテ一々仕拂命令ヲ發スルハ煩雜ニ堪ヘサレハナリ但シ金

額ニ制限アルハ弊害ヲ豫防スルナリ
参看

會計規則

第三十三條 現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏
ノ資格、氏名、銀行ナレハ其名稱前渡ヲ爲スヘキ金額、支出科
目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發
スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一ヶ月分ノ費額ヲ豫
定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費外
國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内
國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ

一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二ヶ月以上
六ヶ月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得
第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ
事務上差支ナキ限りハ成ルヘク分割シテ仕拂命
令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ
大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以内ニ於テ仕拂
命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタル
トキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前
渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕

第四章 支出

拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發
スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ
仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ユル
コトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ
更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超
ヘサルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大
臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ
委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ
仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會
ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用井左ノ
事項ノ計算ヲ明記スヘシ

本條ハ總決算ノ様式ト總決算ニ明記スヘキ事項トヲ示シタルモ
ノナリ

抑政府會計ノ監督ニ三種アリ立法監督行政監督司法監督是レナ
リ立法監督ハ議會之ヲ行ヒ行政監督ハ大藏省主トシテ之ニ任シ
司法監督ハ會計検査院之ヲ司ル而シテ本條ノ規定ハ最モ立法監
督ニ必要ナルモノトス蓋シ立法ノ監督ハ其端ヲ豫算ニ開キ定額
ヲ議定シテ事前ノ監督ヲ爲スト雖モ政府果シテ定額超過ノ支出
ヲ爲サルカ目的外ノ使用ヲナサルカ豫算外ノ支出ヲ爲サ、

第五章 決算

ルカ流用ヲ爲サ、ルカ等ヲ監督セサレハ豫算ノ議定モ徒勞ニ屬スヘクシテ立法監督ノ目的ヲ達セントスルニハ決算ヲ見サルヘカラス此レ決算提出ノ必要ナル所以ニシテ憲法第七十二條ニ其提出ヲ規定セラレタリ然レモ其様式豫算ト異ナルモハ比較對照ヲ爲ス能ハスシテ殆ント決算ノ提出ナキニ均シキ結果ヲ生スルニ至ラン故ニ其様式ヲ同一ナラシムルハ緊要ノ事タルナリ

佛國ニ於テハ決算ノ提出ニ期限ヲ定メ翌々年度ノ初二ヶ月内ニ議院ニ提出スヘキモノトセリ然レモ此期限ハ嘗テ遵守セラレスト云フ果シテ然ルトキハ寧ロ期限ナキニ如カサルナリ本邦此期限ナシト雖モ期限ナキノ故ヲ以テ之ヲ緩慢ニ付スルハ大ニ不可ナリ故ニ決算ノ提出遲延スルトキハ監督ノ効ヲ欠キ豫算ノ參考トモナラサルニ至ルヘケレハ成ルヘク速カニ提出スルヲ必要ト

スルナリ

歳入ノ部

歳入豫算額

歳入豫算額トハ當該年度ニ於テ議會ノ協賛ヲ經タル歳入ノ總豫算額ヲ云フ

調定濟歳入額

調定濟歳入額トハ當該年度ニ於テ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シタル總額ヲ云フ

收入濟歳入額

收入濟歳入額トハ當該年度ニ於テ實際國庫ニ收入シタル額ヲ云フ

收入未濟歳入額

第五章 決算

收入未済歳入額トハ當該年度ニ於テ調定済歳入額ノ内事故アリ
實際現金ノ國庫ニ收入ヲ了セサリシモノヲ云フ

歳出ノ部

歳出豫算額

歳出豫算額トハ當該年度ニ於テ議會ノ協賛ヲ經タル歳出ノ豫算
額ヲ云フ

豫算決定後増加歳出額

豫算決定後増加歳出額トハ議會ノ協賛ヲ經テ決定シタル豫算額
ニ對シ事實上増加支出ヲ要シタルカ爲メ憲法第六十九條ノ豫備
金ヨリ支出シタルモノ若クハ本法第二十一條第二十二條ニヨリ
前年度ヨリ繰越シタル總額ヲ云フ

仕拂命令済歳出額

仕拂命令済歳出額トハ豫算定額内ニ於テ國庫ニ對シ仕拂命令ヲ
發行シタル額ヲ云フ

翌年度繰越額

翌年度繰越額トハ本法第二十一條及第二十二條ニ由リ翌年度へ
繰越使用スヘキ額ヲ云フ

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト

俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

本條ハ總決算ニ添付スヘキ文書ヲ示シタルモノナリ
決算ニ會計検査院ノ検査報告ヲ添フヘキヲハ憲法第七十二條ニ

定ムル所ニシテ此報告書ノ一ハ會計検査院法第十四條ニ規定アリ即チ

會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利息用ハ各其豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

ホリユ一氏曰會計検査院ハ單ニ會計ノ判決ヲ宣告スル所ノ裁判

廳ニ止テスシテ一般財務ノ取扱ニ付キ宣告ヲナシ又報告ヲナス所ノ調査院ノ一種タリト實ニ會計検査院法第十四條ニ定ムル所ハ此調査院タル職務ノ一ニシテ政府會計ノ當否ヲ證明シ議會ノ爲メニ審査ノ資料トナルモノナリ元來議會ハ監督ハ大体ニ止マリ細目ニ渉ル能ハサルヲ以テ會計検査院ノ必要ヲ生ス故ニ其検査ハ最モ正確ナラサルヘカラス是ヲ以テ其組織及權限ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有セシメ其検査判決ヲシテ公平無私ナラシムルナリ

各省決算報告書トハ國務大臣其所管經費ノ決算ヲ報告スルモノニシテ各大臣カ責任解除ヲ求ムルノ要具ナリ

國債計算書トハ國債ノ種類現在高及増減等ヲ記載シタルモノナリ

特別會計計算書トハ本法第三十條ニ依リ特別會計タルコトヲ許サレタルモノ、收支等ヲ記載シタルモノナリ
參看

憲法

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

會計検査院ノ組織權限ハ明治二十二年五月九日法律第十五號ヲ以テ公布セラレタリ

會計規則

第四十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ

據リ毎月支出報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ各省中央會計主務官ニ送付スヘシ

第五十條 各省中央會計主務官ハ各會計主務官ヨリ送付シタル支出報告書ニ據リ毎月支出總報告書ヲ作り之ニ必要ナル参照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十一條 歲入歲出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第五章 決算

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算

第三 最近五ヶ年度間ニ於ケル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五ヶ月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五ヶ年度間資金ノ増減

第四 最近五ヶ年度間損益ノ比較

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

本條ハ政府負債ノ期滿免除ヲ示シタルモノナリ

仕拂フヘキ年度經過後滿五ヶ年トハ經費所屬ノ翌年度ヨリ起算

第六章 期滿免除

シテ滿五ヶ年ヲ云フ例ヘハ廿三年度所屬ノ經費ナレハ廿四年度ノ初即チ四月一日ヨリ起算シ廿九年三月三十一日ヲ以テ期滿トス然レモ此期限内ニ支出ノ請求ヲナシ仕拂命令ノ交付ヲ受ケタルモノハ更ニ其仕拂命令ノ所屬年度經過後五ヶ年内ハ仕拂ノ請求ヲナスヲ得ヘシ例ヘハ二十三年度所屬ノモノニシテ廿八年度内ニ支出ノ請求ヲナシ仕拂命令ノ交付ヲ受ケタルトキハ更ニ二十九年四月一日ヨリ起算シテ五ヶ年間に其仕拂命令ニ對シ現金仕拂ヲ請求スルヲ得ヘシ

支出ノ請求トハ政府ニ向テ仕拂命令ノ交付ヲ請求スルヲ云ヒ仕拂ノ請求トハ仕拂命令ヲ持參シテ金庫ニ現金仕拂ヲ請求シ又ハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ仕拂ノ請求ヲ爲スヲ云フ

負債義務消滅ノ期限ヲ定ムルハ會計整理上必要ニシテ若シ此規

定ナキトキハ數年若クハ十數年ノ後ニ至リ渡漏等ノ請求ニ遇ヒタル場合ニ政府ハ非常ノ手數ヲ煩シテ其果シテ渡漏ナルヤ否ヤヲ確メサルヘカラス時トシテハ負債ノ義務ヲ生シタル事實ノ有無サヘ判然セサルニ至ルヘシ且ツ實際權利者ニ於テ五ヶ年間に請求ヲ爲サハルコトハ罕ナルヘク假令ヒ之レアルモ權利者ニ於テ權利アルコトヲ認知セサリシ如キ場合ニシテ此期滿免除ノ爲メニ損害ヲ被ルコトナカルヘシ佛國ノ期滿免除ハ年度開期ヨリ起算シテ歐洲内居住ノ者ニ對シ五ヶ年歐洲外居住ノ者ニ對シ六ヶ年ニシテ特別ノ場合ニ於テハ期滿後ノ仕拂ト稱スルモノアリ

本法ハ廿三年四月一日ヨリ施行スヘキコトハ明文アレモ本條ノ期滿免除ヲ廿二年度以前ノ經費ニ適用シ其所屬ノ何年度タルヲ問ハス總テ廿三年四月一日ヨリ起算シテ期滿免除ヲ得ヘシト云フ

モノアリ又甚シキハ其所屬ノ翌年度ヨリ起算ス即チ十六年度所屬ノモノナレハ今日既ニ期滿免除ニ屬スト云フモノアリ兩說俱ニ法律ヲ既往ニ溯ラシムルモノニシテ從フ可ラス廿二年度以前ノ所屬ナレハ普通民法上ノ期滿免除又ハ特別ノ法律アルモノハ格別然ラサレハ今後尙ホ幾年ノ後ニテモ政府ハ支出若クハ仕拂ノ義務アルモノニシテ本法ノ支配シ得ヘキ所ニアラサルヘシ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ本條ニ依ラス各々其法律ニ定メタル期限ニ依ルヘキモノトス現今法令ノ存スルモノハ概ネ左ノ如シ

明治八年五月第九十五號布告新舊公債證書條例第五條第五節
(五ヶ年)

明治九年八月第百八號布告金錄公債證書條例第七條 (五ヶ年)

明治十三年十月第四十七號布告金札引換公債證書條例第十五條 (五ヶ年)

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第二百二十五條ヨリ第二百二十七條ニ至ル及第百四十七條

明治十六年十二月第四十八號布告金札引換無記名公債證書條例第十七條 (十五ヶ年)

明治十六年十二月第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例第十七條 (十五ヶ年)

明治十六年九月第三十七號布告陸軍恩給令第八條 (一ヶ年)

明治十六年九月第三十八號布告海軍恩給令第八條 (二ヶ年)

明治十七年一月第一號達官吏恩給例第二十六條 (一ヶ年)

明治十七年九月第二十四號布告大藏省證券條例第八條 (六ヶ月)

第六章 期滿免除

明治十九年十月勅令第六十六號整理公債條例第十四條

(元金十五ヶ年)
(利子五ヶ年)

明治十九年六月勅令第四十七號海軍公債條例第九條 (五ヶ年)

參看

會計規則

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五ヶ年内ハ仕拂

ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三十一日

マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ

會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整

理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五ヶ年内ニ仕拂ノ

請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府カ負

價ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノ

ハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年

度經過後滿五ヶ年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ

其義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿

免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依

ル

本條ハ政府ニ對スル納金義務ノ期滿免除ヲ示シタルモノナリ

政府ニ納ムヘキ金額トハ租稅又ハ行政上手數料ノ類其他返納金

等ヲ云フ

前條既ニ政府負債ノ義務消滅ノ期限ヲ定メタレハ政府ニ對スル

第六章 期滿免除

納金義務ノ消滅期限ヲモ定ムヘキハ當然ノコトニシテ此規定アルトキハ政府ノ粗漏ニ由リ數年若クハ十數年ノ後ニ至リ意外ノ追徴ヲ受ケ迷惑ヲ蒙ルモノナカルヘシ

但書ノ場合ハ現今ニ在テハ明治廿二年三月十三日法律第九號國稅徵收法第十七條ヨリ第十九條ニ至ル場合ノ如キ之レナリ

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及

定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歲入ニ繰入ルヘシ

本條ハ歲計剩餘ノ處分ヲ示シタルモノナリ
歲計剩餘トハ歲入金ヲ以テ經費ヲ支辨シタル後餘レルモノヲ云フ會計規則第四十七條ニ各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三

十一日迄ニ仕拂濟トナラサルモノニ對スル資金ハ本條ノ歲計剩餘ニ組入レスシテ別途ニ整理スヘキヲ規定シタルハ此歲計剩餘トハ歲入實收額ヨリ仕拂命令額ヲ扣除シタル殘高ナリト知ルヘシ

歲計剩餘金ハ從前準備金ニ組入レタレトモ今後ハ翌年度ノ歲入ニ繰入ル、ナリ蓋シ準備金元來ノ目的ハ紙幣ノ交換ニ備ヘタルモノニシテ其充實ヲ計リ歲計剩餘ヲ之ニ繰入セシモ日本銀行ヲシテ兌換券ヲ發行セシメ紙幣制度ノ統一ヲ期シ政府ノ發行ハ漸次廢止セラレヘキノ今日ニ及ンテ復々準備金ノ必要アルコトナシ故ニ本條ノ如ク規定セラレタルナラン

參看

會計規則

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三十一日
マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ
會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整
理スヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度
内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事
故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終
ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ
得

本條ハ定額ノ繰越使用ヲナシ得ヘキ場合ヲ示シタルモノナリ
豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノトハ某ノ經費ハ特ニ繰越使用ス
ルヲ得ル旨豫算ニ明言シアルモノヲ云フ此レ其事業ノ一年度

内ニ終ルヘキヲ豫期セサリシ場合ナリ
一年度内ニ終ルヘキトハ其經費ノ屬スル當該年度内ニ終ルヘキ
ヲ云フ豫算外ニ國庫負擔ノ契約ヲナスコトハ憲法第六十二條未
項ノ制限アリ故ニ豫算内ノ契約ナレハ自然他年度ニ涉ルコトナ
クシテ一年度内ニ終ラサル工事等ハ在ルヘカラサルノ理ナリ然
レモ天災事變等ノ爲メニハ事業ノ遅延ヲ來スコトナキ能ハス故
ニ此場合ニハ特ニ繰越使用ヲ許スナリ避クヘカラサル事故トハ
天災事變ノ如キ豫期シ得サルモノヲ云フ
繰越トハ某年度ノ經費トシテ決定シタル豫算定額ノ全部又ハ一
部ヲ翌年度ニ移シテ使用スルモノヲ云フ憲法第六十四條ニ歲出
入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘントアリテ今年ハ今
年ノ豫算アリ明年ハ又明年ノ豫算アルヘキナリ故ニ本法第三條

ニ各年度ニ於テ決定シタル定額ヲ以テ他ノ年度ノ經費ニ充ツルコトヲ得サルノ規定アリ然レモ本條ノ場合ノ如キハ固ト一年度内ニ完結スヘキヲ豫期セサリシカ又ハ然ラサルモ事實已ムヲ得サルモノニ限り手續ヲ畧シテ繰越ヲ得セシムルヲ實際ノ便宜ニシテ之ヲ以テ憲法ヲ傷ツクルモノト云フヘカラス

抑定額トハ國庫ニ對スル各省大臣ノ仕拂權ヲ云フモノナレハ定額繰越ハ其年度ニ使用セサリシ此仕拂權ヲ翌年度ニ移スニ過キスシテ定額繰越ノアリタル場合ニ其定額ヲ支辨スヘキ國庫ノ資金ヲモ併セテ繰越スモノニバアラサルナリ定額トハ單ニ權ニシテ之ヲ支辨スヘキ國庫ノ資金トハ自ラ別物ナリ故ニ定額即チ仕拂權ヲ使用セサルカ爲メニ餘レル國庫ノ資金ハ歲計剩餘ニシテ前條ニ依テ處分スヘキモノナリ

會計規則第二條ニ歲出ノ所屬年度ヲ定メ其第四項ニ廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ヲ以テ年度ヲ區分スヘキモノトシ又第四十四條ニ各年度ニ屬スル仕拂命令ハ翌年度六月三十日迄ハ之ヲ發スルヲ得ルモノトセリ左レハ受負事業ノ如キ年度内ニ契約濟トナリタルモノハ其竣功三月三十一日ヲ超ユルモ翌年度六月三十日迄ニ竣功シテ代價ノ支出ヲ終ルモ本條ニ依テ繰越ヲナスヲ要セス其年度ノ決算ニ立ツルヲ得テ實際年度後ニ三ヶ月ノ猶豫アルモノナリ故ニ契約濟トナリタル事業ニシテ繰越ヲ要スルハ非常ノ大遲延ヲ來ス場合ノミニシテ實際ニハ多クアラサルヘシ但シ直接ニ從事スル工事製造ニシテ日々ノ契約ニ係ル職工賃ノ如キモノハ三月三十一日限りニテ其餘ハ繰越ヲ要スル部分トナルヘシ

參看

憲法

第六十二條 國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國
庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘ
シ

會計規則

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據
リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇
月以内ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ
本條繰越計算書ハ歲出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項
ヲ示スヘシ

第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度
ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ
額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支
出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其
繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ事
由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣
功遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ
寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ
第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入 八十五

之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

本條ハ繼續費ノ場合ニ於テノ繰越使用ヲ示シタルモノナリ
憲法第六十八條ニ特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得トアリ元來豫算ハ一年度限りノモノニシテ年々議定ヲ經ヘキモノナレトモ事業ノ性質ニ由リ豫メ全体ノ經畫ヲ立テサレハ着手スヘカラサルモノアリテ一年ヲ以テ竣功スヘカラサル事業ノ爲メニハ年度ニ拘ハラズ豫メ總額ヲ定ムルノ必要アリ此ノ如ク總額ヲ定メテ數年間打續

ク所ノ費用ヲ繼續費ト云フ其性質既ニ年々打切ルヘキモノニアラサレハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繰越スコトハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ

本條ノ竣功年度トアルヲ憲法ノ明文ニ年限ヲ定メトアルニ依テ豫定シタル年限ヲ云フトナシ此ノ豫定年度ノ事業ニシテ正當ノ事故ノ爲メニ遲延スルトキハ前條ヲ適用シ尙ホ其翌年マテ繰越使用スルコトヲ得ヘシト云フノ說アリ然レトモ前條ノ事故ノ爲メニ繰越ヲナシ得ルモノハ工事製造ニ限り本條ニハ其ノ他ノ事業トアリテ法律編纂ノ如キ其他種々ノ事業ヲ包含スレハ此等ニ對シテハ通用スヘキニアラス若シ又工事製造外ノ事業ニシテ豫定年限ニ至リ竣功セサルモノアル場合ニハ僅々タル殘事業ノ爲メニモ豫算ノ議決ヲ仰カサルヘカラサルモノトセンカ然ルトキハ

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入 八十七

遂ニ本條制定ノ趣意ヲ失フニ至ラン蓋シ本條ノ趣意ハ豫定年限
ヲ云フニアラスシテ實際ノ竣功年度ヲ云フナリ但シ實際ノ竣功
年度マテ繰越ヲ許ストキハ事業ノ遅延ヲ來シ豫算ノ効力ヲ減殺
スルノ恐レアルヘシ故ニ憲法ニ年限ヲ定メトアルモ之カ爲メナ
リトノ議論モアラシカ然レモ既ニ一定シタル總額ノアルアレハ
別ニ弊害ヲ生スルコトナカルヘキナリ

参看

憲法

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續
費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

會計規則(前條ノ参看ヲ見ヨ)

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完

結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收
入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ
依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返
納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルコ
トヲ得

本條ハ豫算外收入ノ處分ヲ示シタルモノナリ

誤拂トハ拂フヘカラサルモノヲ仕拂ヒ又ハ甲者ニ仕拂フヘキモ
ノヲ乙者ニ仕拂ヒタルヲ云ヒ過渡トハ仕拂フヘキ金額ヲ超過シ
テ仕拂ヒタルモノヲ云フ此誤拂過渡アリタルトキハ受取人ヨリ
返納セシムヘキハ勿論ノコトナリ

出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入トハ過年度ノ收入ニシテ所
屬年度ニ於テ收入漏トナリタルモノヲ云フ但シ出納事務ノ完結

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入 八十九

ハ年度後八ヶ月即チ翌年度十一月三十日(本法第一條)ナレトモ金庫ノ現金出納ハ年度後五ヶ月即チ翌年度八月三十一日(規則第三條)ナレハ此期限即チ翌年度八月三十一日ヲ過キタルモノハ過年度收入トナルヘシ尤モ會計規則第一條ノ年度區分ニ依レハ過年度收入トナルヘキモノハ一定ノ納期アツテ收入漏トナリタルモノ又ハ徵稅令書若クハ納入告知書ヲ發セシモ翌年度八月三十一日マテニ納濟トナラザリシモノ、ミニ限リ納期ノ一定セサル收入ニシテ徵稅令書若クハ納入告知書ヲ發セザリシモノハ縱令ヒ其收入ヲ生スヘキ事實ノ數年前ニアリシモノニテモ過年度收入トハナラサルナリ

其他豫算外ノ收入トハ重モニ盜難金ノ辨償違約ノ辨償金ノ如キモノ是ナリ

以上ノ收入ハ其收入ヲ生スヘキ事實ノ屬スル年度ニ拘ハラズ總テ其收入ヲナストキノ年度ノ歳入ニ組入ル、モノトス即チ會計規則第一條ノ第二第三項ニ從ヒ納入告知書ヲ發シタル日又ハ領收ヲナシタル日ノ年度ノ歳入トナルナリ

從來誤拂過渡ハ其仕拂ヒタル經費へ戻入レタレトモ元來誤拂過渡ハ大抵算法上ノ誤リ等ヨリ生スル小金額ニシテ之ヲ定額ニ戻入スルハ手數多クシテ却テ會計ノ整理ヲ遲延スルノ恐レアリ且ツ誤拂過渡ハ注意ヲ厚クスレハ之ヲ避クルヲ得ヘシ故ニ本法ニテハ取扱上便宜ノ爲メ之ヲ歳入ニ組入ル、トトセルナリ白耳義ノ會計法亦之ヲ歳入トス

前金渡トハ本法第十五條第二項ノ現金前渡及第二十五條ノ軍艦兵器彈藥ノ買入ニ係ル前金拂ヲ云ヒ概算渡トハ出發ニ際シ見積

第七章

歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

九十一

リヲ以テ渡ス旅費ノ類ヲ云ヒ繰替拂トハ他廳ノ爲メ一時立替仕
拂ヒタルモノヲ云フ此等ハ皆仕拂ノ際拂切リタルモノニアラス
シテ返納アルヘキヲ豫期セシモノナレハ特ニ經費ノ定額ニ戻入
スルコトヲ許スナリ但シ法律勅令ニ依リトアルカ故ニ法律勅令ヲ
以テ特ニ許サレタル前金渡概算渡繰替拂ナラサルヘカラス若シ
法律勅令ニ依ラサル前金渡概算渡繰替拂ヲナシタルトキハ即チ
誤拂又ハ過渡ニシテ其返納ハ之ヲ歳入ニ組入レサルヘカラサル
ナリ

参看

會計規則

第六十三條 各省大臣會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ
戻入ヲ爲サントスルトキハ定額戻入要求書ヲ作り大藏大

臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第六十四條 定額戻入要求書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 戻入ルヘキ金額

第二 金庫ニ於テ返納金ヲ領收シタル日付

第三 前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル仕拂命令ノ金額年

度科目番號日付

第四 戻入ノ事由

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ノ要求ヲ爲スハ翌年

度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第六十六條 大藏大臣各省大臣ノ要求ニヨリ定額ノ戻入ヲ

檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

概算渡前金渡方 明治二十二年十一月廿日勅令第百二十一號

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入 九十三

第一條 内國及外國出張ヲ命シタル者ノ旅費ハ旅行ノ見積
リ行程及日數ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第二條 外國留學ヲ命シタル者ニ支給スル學資金及諸手當
ハ給額半箇年分以内ニ於テ前金渡ヲ爲スコトヲ得

第三條 地方稅ノ補助トシテ國庫ヨリ支出スル府縣警察費
連帶支辨金ハ豫算ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ
工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付ス
ヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定
ニ依ルコトヲ得ヘシ

本條ハ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ競争ニ付スヘキコトヲ示シ

タルモノナリ工事トハ土木營繕ヲ云ヒ物件トハ動産不動産勞力
等有形物無形物ヲ包含シテ云フ公告シテ競争ニ付スヘシトハ揭
示又ハ官報新聞紙等ニテ公告ヲナシ入札又ハ其他ノ方法ヲ以テ
廣ク競争ヲナサシムルヲ云フ但シ會計規則ニ競争ハ總テ入札法
ヲ用フルモノトセリ

本條ノ規定ナキトキハ取引ノ間ニ私曲行ハレ易ケレトモ廣ク競
争ニ付スルトキハ政府ノ取扱ヲ公明ニシ當局官吏ノ廉正ヲ保チ
政府ノ爲メニ經濟上ノ利益モ少ナカラサルナリ

工事及物件ノ賣買貸借ト云ヘハ其意廣クシテ一切ノ取引ヲ包括
ス然ルニ運搬ノ契約ハ本條ノ規定外ナリトノ説アリ然レトモ余
輩ハ既ニ物件ヲ解釋シテ動産不動産勞力等有形物無形物ヲ包含
スルモノトセリ左レハ運搬ト云ヘル仕事ハ即チ一ノ物件ニシテ

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

或ル物ヲ一所ヨリ他所ニ移サシメ之ニ對シテ代價ヲ仕拂フキハ
 通例之ヲ運搬費ト云フ即チ物件ノ買入代ニシテ之ヲ本條ノ規定
 外ナリト云フヘカラス又物件トハ有形物ニ限リ勞力ノ如キハ此
 内ニアラスト云フモノアレトモ但書第十二第十三ノ場合ニ於テ
 貧民ノ傭役囚徒ノ傭役ニ對シ示セルモノアルヲ以テ見レハ本條
 ノ物件ニ勞力ヲ含ムコト明カナリトス但書ノ場合ニハ何レモ物
 品トノミアリテ物件トアラス例ヘハ第七ノ場合ニ五百圓ヲ超ヘ
 サル工事又ハ物品ノ買入借入トアルカ故ニ勞力ノ傭入ナルトキ
 ハ五百圓未滿ノモノモ一々競争ニ付セサルヘカラサルトナリ
 テ不都合ヲ生スヘケレハ此等ハ物件ト書セルモノト同一ニ解釋
 シテ不可ナカラシ
 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外トアルハ政略上又ハ經濟上ノ

利益ノ爲メニ別ニ方法ヲ定ムルコトアリ即チ北海道土地拂下ノ
 如キ其一例ナリ此レハ法律勅令ヲ以テ取引ノ方法ヲ定メタルモ
 ノニ係リ必ス其方法ニ依ルヘキモノニシテ但書ノ場合ハ競争ヲ
 以テ本則トシ隨意ノ約定ト云ヘル一方法ニ依ルヲ得ルノ便宜
 ヲ與ヘラレタルナリ
 隨意ノ約定トハ競争ニ依ラスシテ適當ト認ムル一人若クハ數人
 又ハ一會社若クハ數會社ト相對ニ約定スルヲ云フ即チ隨意ノ約
 定ヲ爲シ得ヘキ場合ハ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入
 又ハ借入ル、トキ

專賣特許品又ハ書畫古器物ノ如キ秘藏ノ美術品等ハ競争者アラ
 スシテ却テ公告等ノ費用ヲ損スヘク經濟上ノ利益ナレハナリ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ
命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ス
トキ

軍備又ハ外交ニ關スルモノ、如キ競争ニ付シテ事實ヲ暴露スル
トキハ政署上ノ妨害トナルモノアルヘケレハナリ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ
爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

天災事變ノ如キ場合ニシテ競争ニ付スヘキ暇ナキ急遽ニ際シテ
ハ已ムコトヲ得サレハナリ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由
リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ
直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

特種ノ物質トハ某炭坑ノ石炭ト云フカ如キ物質ニ限リアルモノ
又特別使用ノ目的トハ某地某人ノ生産製造物ニ限リ使用ノ目的
アルモノヲ云フ本項ノ場合モ亦第一項ト全シク競争ニ付スルノ
要ナケレハナリ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ
得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、ト
キ

某技術家ニアラサレハ製造シ能ハサルモノナレハ亦競争ニ付ス
ルノ効ナケレハナリ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其
ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

某地所在若クハ幾坪幾間ノ土地家屋又ハ煉瓦石造若クハ幾層家

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

屋ト云フカ如キ制限アル場合ニハ亦競争ニ付スルノ効アラサル
ヘケレハナリ

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借
入ノ契約ヲ爲ストキ

小金額ノモノマテモ一々競争ニ付スルハ却テ經濟上不利益ナル
ヘケレハナリ五百圓トハ一口ニ付テ云フナリ五百圓以上ノ工
事等ニテモ故ラニ數口ニ分割シテ五百圓未滿ノモノトナシ以テ
競争ノ手續ヲ避クルカ如キナカラシテ要ス

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フ
トキ

見積リ價格トハ政府ニ於テ見積リタル價格ヲ云フ本項モ其趣意
前項ニ全シ但シ金額ノ更ニ小ナルハ本項ハ見積價格ナレハ故ラ

ニ小金額ニ見積リ以テ競争ノ手續ヲ避クルノ弊ヲ慮リタルナラ
ン但不動産ナルトキハ假令二百圓以下ノ小價格ノモノト雖モ競
争ニ付スヘキハ勿論ナリ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

軍艦ニハ制限アリ出來合ニテ適當ノモノハ多カラサルヘク新造
ノ場合ナラハ粗造等ノ弊ニ陥リ軍備ノ目的ヲ誤ルヘケレハナリ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

軍馬ニモ亦制限アリ競争ニ付シ得ヘカラサレハナリ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ
買入ル、トキ

其物ヲ試験センカ爲メノ製造又ハ買入ナレハ競争ニ付スル能ハ
サレハナリ

第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ

慈善事業獎勵ノ一端トナレハナリ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ルヽトキ

政府間ノ取引ナレハ弊害アラサルヘケレハナリ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

商業的ノ性質ヲ帶ヒ定價ヲ以テ賣拂フモノ、如キ競争ニ付スル能ハサレハナリ
参看

會計規則

第六十七條 契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシムヘシ
仕拂命令官ハ前項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第六十八條 前條ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既済又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

ヲ超ユヘカラス

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ
工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定

ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ

十以上

第七十二條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ

契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ
再度ノ入札ヲ爲スモ尙同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計仕譯落成期限受渡期限保證金額契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル
第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借 百七

官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモ
ノトス

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ
之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テ
ハ左ノ書類ノ一ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第一 設計仕譯書ノ未ニ請負人ノ署名捺印シタルモノ

第二 請負人ノ署名捺印セル承諾書

第三 商業上ノ習慣ニ從ヘル往復書

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨ
リ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件 買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ特別ノ場合ノ外前金拂ノ禁止ヲ示シタルモノナリ
前金拂トハ未滿ノ工事未納ノ物品ニ對シ手附金又ハ代價ノ全部
若クハ一部分ヲ仕拂フヲ云フ蓋シ前金拂ヲナストキハ違約アリ
タル場合ニ政府ノ損失ニ歸スルコトアルヘキカ故ニ此ノ如ク規
定シテ之ヲ禁セルナリ但シ之カ爲メニ其利子丈ケ代價ヲ高ムル
コトアルヘキモ前金拂ヨリ生スル弊害ヲ避ケンカ爲メニハ已ム
ヘカラサルナリ

前金拂ヲ禁スルトキハ新聞雜誌ノ如キ前金拂ノ習慣アルモノハ
購入ニ差支ヲ生ストイヘトモ政府ノ信用ヲ以テ後拂ヲ約束スル
コト難カラス若シ又新聞社等ニテ強テ前金拂ヲ要求セハ多少手
數料ヲ要スヘキモ直接購入ヲ止メ請負人ヲ定メテ後拂ノ買入ト
ナスコトモ容易ナルヘシ

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

軍艦兵器彈藥ニ限り前金拂ヲ許ス所以ノモノハ此等ハ軍備ニ關スルモノニシテ各國銳利ヲ競フノ今日ニ於テ法規ニ拘束セラレテ軍備ノ効力ヲ薄フスルカ如キコトアラシムヘカラス且ツ金額モ概子巨大ノモノナレハ却テ不經濟ノ大ナルモノモアルヘケレハナリ

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

本條ハ出納官吏ノ責任ヲ示シタルモノナリ
政府ニ屬スル現金若クハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏トハ即チ出納官吏ニシテ會計主務官收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏及物

品會計官吏之レナリ此等出納官吏タルモノハ其掌ル所ノ金錢物品ニ付一切ノ責任ヲ負擔シ其責任ノ解除ヲ得ンカ爲メニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘキモノナリ
出納官吏ノ責任ハ私法上ノ關係ヲ有シ其政府ノ金錢物品ニ於ケルハ銀行ニ於テ官金取扱ノ委托ヲ受ケタル場合ト異ナラス故ニ其出納ハ之ヲ會計検査院ニ證明シ其検査判決ヲ受ケサルヘカラサルナリ會計検査院法第二十條ニ云ク會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及ヒ證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシムト此會計検査院ノ裁判廳タル職務ニ屬スルモノナリ

第九章 出納官吏

参看

會計規則

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各
省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官ヲ定メタルトキハ其代理官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官ハ其代理シタル所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ各省大臣ニ隸屬シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第八十七條 會計主務官トナルヘキ官吏ノ任命罷免ハ豫メ

大藏大臣ノ同意ヲ要ス但陸海軍武官ニ係ル場合ハ本條ノ限ニアラス

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決

第九章 出納官吏

シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏交替ノトキハ本屬大臣ヨリ特ニ命シタル検査員ノ立會ヲ以テ會計事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ
第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書二通ヲ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 會計主務官ハ毎年度經過後五ヶ月以内又收入官吏ハ毎年度經過後七ヶ月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ其所屬省又ハ歳入ノ事務管理廳ニ送付スヘシ

第九十六條 各省又ハ歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二ヶ月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算

書及證憑書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期限間ニ執行シタル會計ノ計算

書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

物品會計規則 明治二十二年六月十一日勅令第八十四號

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ年度後四ヶ月以内ニ證據書類ヲ添ヘ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ
物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣

ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任

ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ

見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部局長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十

五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シテ之ヲ

會計検査院ヘ送付スヘシ

會計検査院法 明治二十二年五月九日法律第十五號

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ檢

査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付

シ其責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辨

明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ

本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様

式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲

戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖モ其ノ

付シタル日ヨリ五ヶ年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請

求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見

シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見

シタルトキハ五箇年後ト雖モ再審ヲナスコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請

求スルコトヲ得ス

會計検査院事務章程 明治二十二年九月廿四日勅令第百六號

第九章 出納官吏

第三十六條 會計検査院ハ検査ノ成績ニ依リ摘發シタル事項ニ付當該官吏ニ審理書ヲ發付シ答辨又ハ正誤セシム

第三十八條 審理書ニハ左ノ事項ヲ掲ク

- 第一 不合规ノ件ニ對スル批難
- 第二 將來ノ措置ニ對スル注意
- 第三 不明瞭ノ件ニ對スル推問

第三十九條 會計検査院ハ第一回ノ審理書ニ對スル答辨又ハ正誤ヲ以テ仍ホ不充分ナリト認定シタルトキハ再三審理書ヲ發ス

検査ノ後計算ヲ正當ナラスト認定シタルトキハ命令官ニ對シテハ之ヲ本屬長官ニ通牒シ出納官吏ニ對シテハ判決書ヲ發ス

第四十條 出納官吏ニ認可狀又ハ判決書ヲ交付シタルトキハ會計検査院ハ其ノ謄本ヲ以テ大藏大臣ニ通知スヘシ

第四十一條 判決書ヲ發シタルトキハ會計検査院ハ速ニ本屬長官ニ移牒シテ其ノ處分ヲ要求スヘシ

第四十二條 會計検査院前項ノ要求ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ由ヲ行務成績書ニ載セ上奏スヘシ

第四十三條 會計検査院法第二十四條ニ依リ再審ニ關ル出納官吏ノ請求ヲ受理スルハ左ノ場合ニ限ル

- 第一 計算又ハ事實ニ錯誤アリトスルトキ
- 第二 脱漏又ハ二重記載アリトスルトキ
- 第三 新ニ證據書ヲ發見シタルトキ

第九章 出納官吏

第四 正當ナラサル證憑書ニ據リ判決シタリトスルトキ

第五 判決ヲ以テ法律命令ニ違反セリトスルトキ

第四十四條 再審ノ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セ

サリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ

由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタ

ル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實

ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非

サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

本條ハ出納官吏其責任ニ屬スル金錢物品ヲ亡失毀損シタル場合

ニ於テ負擔辨償ノ義務アルヲ示シタルモノナリ

避ケ得ヘカラサリシ事實トハ非常ノ天災事變ノ如キ豫防保護ノ

力及ハサリシ事實ヲ云フ保護ヲ盡シ監督ヲ怠ラスト雖此事實

ノ爲メニ亡失毀損ヲ來シタル場合ナルトキハ之ヲ會計検査院ニ

證明シ會計検査院ニ於テ正當ナリトシテ責任解除ノ判決ヲ下シ

タル後始テ辨償ノ義務ヲ免ル、コトヲ得ルモ然ラサレハ如何ナル

場合ニ於テモ決シテ之ヲ免ル、コトヲ得ス故ニ責任解除ヲ得ヘキ

正當ノ事實アル場合ト雖ヒ會計検査院ノ判決以前一旦ハ辨償ノ

義務ヲ負擔セサルヘカラス

一般官吏ノ過誤失策ハ懲戒處分ヲ受クルノミニシテ私法上ノ責

任ヲ負擔スルコトナシト雖ヒ出納官吏ニ在ツテハ過誤怠慢故意等

事情ノ如何ヲ問ハス苟モ其保管スル所ノ金錢物品ニ付政府ノ損

失ヲ生スルトキハ私法上ノ責任ヲ負ヒ辨償ノ義務アルモノトス

此規定ハ出納官吏ヲシテ他ノ官吏ニ異ナル特種ノ性質ヲ有セシ

ムルモノニシテ金錢財貨ノイタル私曲行ハレ易ク弊害生シ易キ
ヲ以テ出納官吏ノ責任ヲ重クシ其職務ヲ慎重セシメサルヘカラ
サルカ故ナリ

參看

會計規則

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ
損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決
以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納
官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書
ヲ作り證據書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査
院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ
猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決
シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證
金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ムヘシ

本條ハ出納官吏ニシテ身元保證金ヲ納メシムヘキヲ要スルモ
ノハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定メラルヘキヲ示シタルモノナリ
前條ニ於テ出納官吏負擔辨償ノ義務ヲ規定シタルモ身元保證金
ヲ徴收セサレハ未タ完キモノト云フヘカラス故ニ別ニ勅令ヲ以
テ之ヲ定ムルコトセラレタリ

參看

會計規則

第二百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第二百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第二百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子

ヲ付スヘシ

身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ大藏大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ

第二百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サハルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣ノ通知ニ依リ大藏大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ

第九章 出納官吏

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徴收スヘシ

第百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第百八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サハルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六ヶ月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サハルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス
身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタ

第九章 出納官吏

ル後ニ非サレハ之ヲ還付セズ

物品會計規則

第十九條 物品會計官吏ノ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會

計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼

ヌルコトヲ得ス

本條ハ仕拂命令ノ職務ト現金出納ノ職務トノ兼行ヲ禁シタルモ
ノナリ

仕拂命令官ニシテ自カラ現金ノ出納ヲ掌ルトキハ不法ノ仕拂ヲ
ナスノ弊アルカ故ニ之ヲ禁シタルナリ

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノア

ルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得特別會計ヲ設

置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

本條ハ特別會計ヲ設置シ得ヘキ場合及特別會計ノ設置ハ法律ヲ
以テスヘキヲ示シタルモノナリ

本法ハ政府會計ノ全般ニ渉ル法則ナレハ苟モ政府ノ會計ニ屬ス
ルモノハ一切本法ニ準據スヘキハ勿論ナレド政府ノ事業ニハ種
々アリテ其中本法ノ條項ニ據リカタキカ又ハ準據シ得ルモ反テ
不經濟ノ場合ナキニアラス故ニ此ノ如キ場合ニハ特別會計ヲ設
置スルコトヲ得ルナリ此特別會計ヲ設置スルノ必要アルモノハ
作業場等ノ類ニシテ固ト特別ノ須要ニ因ルヲナレハ確然タル理
由アルヲ要シ叨リニ之ヲ設置スヘキニアラス且ツ本法ハ會計全
般ノ通則ナレハ縱令ヒ特別會計ヲ設置セル場合ニ於テモ其據リ

第十章 雜則

カタキ條項ノ外ハ皆本法ニ準據スヘキモノナリ
本法ハ政府ノ會計ヲ監督センカ爲メニ設ケタル法律ナリ故ニ此
法律ニ準據シカタキモノアツテ特別會計ヲ設クルニハ亦法律ヲ
以テセサルヘカラス若シ然ラスシテ之ヲ政府ノ自由ニ任センカ
此會計法モ遂ニ徒法タルニ至ルナキヲ保セサレハナリ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スル

コトヲ得

本條ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルヲ得ヘキヲ示シタル
モノナリ

政府ハ現金出納ヲナスカ爲メニ各地ニ金庫ヲ設置セサルヘカラ
ス而シテ政府自ラ之カ取扱ヲナストキハ非常ニ多數ノ官吏ヲ要
シ且ツ巨額ノ出納ヲ扱ハシムルコトナレハ多クノ身元保證金ヲ

徴セサルヘカラサルカ如キ其事行ヒカタシ殊ニ其事務モ銀行ノ
如ク敏捷ナル能ハス之ヲ銀行ニ命スルトキハ政府ノ爲メニモ經
濟ナルヘク一般經濟ノ爲メニモ資金ヲ死藏スルコトナクシテ其
利益少々ナラサルナリ

参看

日本銀行條例 明治十五年六月第三十三號布告

第十三條 政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱

ニ從事セシムヘシ

金庫規則 明治二十二年十一月十一日勅令第百二十六號

第六條中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行

ヲシテ取扱ハシム

第十一章 附則

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ
明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノ
ハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス
決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲
計ヨリ施行ス

本條ハ本法施行ノ期限ヲ示シタルモノナリ

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各々其ノ條
項施行ノ日ヨリ廢止ス

附錄

國稅徵收法

法律第九號
二十二年三月十三日

朕國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ハ關稅ヲ除ク外總テ此法律ニ據テ之ヲ徵收ス

第二條 市町村ハ其市町村内ノ地租ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ納付スルノ義務アルモノト
ス

前項ノ事務ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第三條 其他ノ國稅ハ勅令ヲ以テ命スルトキハ前條ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ於テハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其市町村ニ交付スヘシ

第四條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スル
ノ責ニ任スヘシ

第五條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ府
縣知事ヲ經テ其責任ノ免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

附錄 國稅徵收法

第六條 納税人納期限ヲ過キ國稅ヲ完納セサルトキハ別ニ定ムル所ノ法律ニ據リ之ヲ處分ス

第七條 國稅納期ノ末日日曜日又ハ大祭日祝日ニ當ルトキハ其翌日ヲ以テ納期ノ末日トス

第二章 徵收

第八條 地租及勅令ニ依リ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ徵收スルトキハ市町村ニ對シ其他國稅ヲ徵收スルキハ各納税人ニ對シ府縣知事徵稅令書ヲ發スヘシ

第九條 市町村長ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納税人ニ發スヘシ

第十條 納期アルモノハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外該納期ノ十五日以前納期數日ノハ初日ノ十五日以前ハ初日ノ十五日以前ヲ云フ 隨時收入ニ係ルモノハ其納期日ヲ定メ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發スヘシ

第十一條 第八條第一項ノ場合ニ於テハ各納税人ハ稅金ヲ市町村收入役ニ拂込ニ其領收證ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス但町村會ノ議決ヲ以テ町村長ニ收入役ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

第八條第二項ノ場合ニ於テハ各納税人ハ稅金ヲ金庫ニ拂込ニ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ得テ其納稅義務ヲ了ルモノトス

第十二條 市町村長ハ市町村收入役ニ於テ受領シタル稅金ヲ受取之ヲ金庫ニ拂込ニ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ得テ其義務ヲ了ルモノトス

第十三條 市町村長ハ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ其滯納ノ稅目金額及滯納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ

第十四條 納税人他ノ負債ニ依リ身代限りノ處分ヲ受ルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ未タ其納期ニ至ラサルモ他ノ債主ニ先テ其稅金ヲ徵收スヘシ
前項ノ場合ニ於テ酒類醬油造石稅ニ限り其課額既ニ定リタル稅金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ他ノ債主ニ先テ之ヲ徵收スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テ負債ノ抵償物件中徵收ヲ要スル稅金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタルモノアルトキハ其賣却代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充テタル後稅金ヲ徵收スヘシ

第十六條 地方稅備荒儲蓄金市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財產ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅ヲ先取スヘシ

第三章 期滿免除

第十七條 徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發セシテ納期限ノ翌日ヨリ起算シ滿三年ヲ

附錄 國稅徵收法

經過スルトキハ納税人ハ其義務ヲ免ル、モノトス
第十八條 納税人法律命令ヲ犯シ脱税ヲナシタル場合ニ於テ其公訴ノ期滿免除ト爲ルトキハ其脱税金ノ追徴モ亦同時ニ免ル、モノトス

第十九條 國稅期滿免除ノ期限内ニ於テ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發シタルトキハ期限ノ經過ヲ中斷スルモノトス
期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタルトキハ更ニ其翌日ヨリ期限ヲ起算スヘシ但前後ノ日數ヲ通算シ滿五年ヲ過ルコトヲ得ス

第四章 附則

第二十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ據リ市町村ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十一條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス

○
國稅徵收法施行細則大藏省令第三號
明治二十三年二月十二日
明治二十二年三月三號國稅徵收法施行細則左ノ通り改正シ明治二十三年四月

一日ヨリ施行ス

國稅徵收法施行細則

- 第一條 徵收法第八條市町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號第二號樣式ニ依リ各納税人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第三號樣式ニ依リ調製スヘシ
- 第二條 府縣知事ニ於テ徵稅令書ヲ發シタルトキハ該納額ヲ收入官吏ニ達スヘシ
- 第三條 市町村長ニ於テ地租船車稅ノ徵稅傳令書發付後納期限以前ニ於テ土地若クハ船車ノ所有權移轉又ハ土地ノ質入ニ係ルモノアルトキハ彙ヤノ傳令書ヲ更正スヘシ
- 第四條 各納税人ニ於テ稅金ヲ金庫ニ納付スルトキハ徵稅令書ヲ添付スヘシ
- 第五條 市町村長ニ於テ稅金ヲ金庫ニ納付スルトキハ第四號樣式ノ納付書ヲ添付スヘシ
- 第六條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十三號第十五條及第十六條ニ據リ金庫ニ拂込ムヘシ
- 第七條 各納税人若クハ市町村長ハ稅金ヲ金庫ヘ納付シタルトキハ即時別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ收入官吏ニ請フヘシ
- 第八條 各納税人若クハ市町村長ヨリ別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ請ブトキハ收入官吏ハ即時ニ領收證書式ノ位置ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ

附錄 國稅徵收法施行細則

- 第九條 收入官吏ハ其切離シタル別符ニ領收證檢印濟ノ年月日ヲ記入シ其傍ニ檢印シ之ニ據リ收入簿及徵稅簿ニ記入スヘシ
- 第十條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第二號ノ領收證ヲ發シ同時ニ收入簿及徵稅簿ニ記入スヘシ
- 第十一條 收入官吏現金ヲ金庫ニ拂込タルトキハ其別符附領收證ヲ府縣知事ニ送付シ別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ
- 第十二條 府縣知事ハ收入官吏ノ送付シタル金庫ノ領收證ヲ檢シ收入檢定簿ヲ備ヘテ之ヲ記入シ領收證書式ノ位置ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ
- 第十三條 府縣知事ニ於テ收入官吏ノ送付シタル領收證ヲ檢シタルトキハ毎月其檢定報告書ヲ製シ翌月七日以内ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ
- 第十四條 收入官吏ハ毎日領收證ヨリ切離シタル別符及拂込額ノ總計金額ト金庫ヨリ毎日報告スル税金領收日計表ノ金額ト照查スヘシ
- 第十五條 收入官吏ハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第四號ニ據リ收入報告書ヲ調製シ收入金月計對照表ヲ添ヘ翌月七日マテニ府縣知事ニ送付スヘシ
- 第十六條 府縣知事ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ヲ取纏メ同式ノ毎月收入集計書ヲ添ヘ收入官吏ヨリ送付スル所ノ收入報告書及收入金月計對照表ヲ翌月十五日

マテニ大藏省ニ送付スヘシ

- 第十七條 收入官吏ハ第五號第六號樣式ニ據リ徵稅簿ヲ備ヘ認定額、收入額、收入未濟額、缺損額ヲ記載スヘシ
- 第十八條 收入官吏ニ於テ調製セル收入簿、現金出納簿ハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第十四號及第十八號ニ依ルヘシ
- 第十九條 收入官吏ハ第七號樣式ニ據リ各納期後五十日以内ニ收入額、收入未滿額及缺損額報告書ヲ調製シ府縣知事ニ送付スヘシ
- 第二十條 府縣知事ハ前條ノ報告書ヲ取纏メ更ニ同式ノ集計報告書ヲ調製シ各納期後六十日以内ニ大藏省ニ送付スヘシ
- 第二十一條 收入檢定簿、檢定報告書其他事務整理上必要ナル帳簿ハ便宜ノ式ニ據リ之ヲ調製スヘシ

第一號樣式

用紙適宜 縱四寸五分 横三寸三分

第	何	號	經	常	租	稅	何	郡	何	長	氏	名	納
明	治	何	年	度	地	租	田	租	明	治	何	年	第
													何
													期
													分

附錄 國稅徵收法施行細則

徵 稅 令 書

收入官吏官氏名扱

收稅部何地出張所

元割印帳

一金何程

右何年何月何日限何地金庫へ納付スヘシ

明治何年何月何日

府縣廳之印

何府縣知事氏名

第二號樣式

用紙寸法同上

第何號	常租	稅	何郡何	長氏名納
明治何年度	子	稅製	造	稅
			第何期	分

徵 稅 令 書

收入官吏官氏名扱

收入部何地出張所

元割印帳

一金何程

内

- 一金何程
- 一金何程
- 一金何程

何ノ誰
何ノ誰
何ノ誰

納稅人數多アリテ記入シ能ハサル時ハ令書ニハ合計ノ
ミヲ記載シ二人別仕譯書ヲ添付スヘシ

右何年何月何日限何地金庫へ納付スヘシ

明治何年何月何日

府縣廳之印

何府縣知事氏名

第三號樣式

用紙適宜 縱四寸五分ノモノ二枚 橫四寸五分ノモノ一枚 接續

附錄 國稅徵收法施行細則

徵稅令書領收

第何號	經	常租	稅	何郡何村氏名納
明治何年度	酒	造	稅	第何期何分
收入官吏官氏名	收稅部	何地	出張所	
一金何程				
右何年何月何日限何地金庫へ納付スヘシ				
明治何年何月何日				
何府縣知事氏名				
府縣廳之印				
第何號	經	常租	稅	何郡何村氏名納
明治何年度	酒	造	稅	第何期何分
收入官吏官氏名	收稅部	何地	出張所	
一金何程				
右領收候也				
明治何年何月何日				
何地金庫印				
收入官吏官印				

證書

第何號	經	常租	稅	何郡何村氏名納
明治何年度	酒	造	稅	第何期何分
收入官吏官氏名	收稅部	何地	出張所	
一金何程				
右領收候也				
明治何年何月何日				
何地金庫印				
收入官吏官印				
第何號	經	常租	稅	何郡何村氏名納
明治何年度	酒	造	稅	第何期何分
收入官吏官氏名	收稅部	何地	出張所	
一金何程				
明治何年何月何日何地金庫へ納付				
收入官吏官印				

第四號樣式

用紙適宜 縱四寸五分ノモノ二枚 縱四寸五分ノモノ一枚 接續
横三寸三分

納付證書領

第何號	經	常租	稅	何郡何	何分
明治何年度	地	租田	租	明治何	何年
收入官吏官氏名	收稅部何地出張所				
徵稅令書第何號ノ分又ハ金何程ノ内					
一金何程					
右納付候也					
明治何年何月何日					
何郡何市町村 長氏名印					
金庫 割印					
第何號	經	常租	稅	何郡何	何分
明治何年度	地	租田	租	明治何	何年
收入官吏官氏名	收稅部何地出張所				

收證書

徵稅令書第何號ノ分又ハ金何程ノ内					
一金何程					
右領收候也					
明治何年何月何日					
何地金庫印					
金庫 割印					
第何號	經	常租	稅	何郡何	何分
明治何年度	地	租田	租	明治何	何年
收入官吏官氏名	收稅部何地出張所				
徵稅令書第何號ノ分又ハ金何程ノ内					
一金何程					
明治何年何月何日何地金庫へ納付					

附錄 國稅徵收法施行細則

記簿凡例

- 一 收入官吏ハ府縣知事ヨリ納額ノ達ヲ受ケタルトキハ其納額ヲ一市町村毎ニ第五號ノ帳簿ヘ①印ノ如ク記載シ其増額ハ②印ノ如ク記載シ其減額ハ③印ノ如ク記載スルモノトス
- 二 税金收入濟ニ至リ納税人ニ檢印ヲ與ヘ別符ヲ切離シタルトキハ之ヲ納額ニ照合シ④印ノ如ク記載シ其殘高ヲ⑤印ノ如ク掲記スルモノトス
- 三 滯納處分ノ未追徴シタル税金ハ⑥印ノ如ク記入シ其缺損ヲ生セシモノハ⑦印ノ如ク掲載スルモノトス
- 四 隨時收入ニ係ル各納税人別ノ納額ノ通知ヲ受ケタルトキハ第六號帳簿ヘ①印ノ如ク記載シ税金收入濟ニ至リ檢印ヲ與ヘ別符ヲ切離シタルトキハ②印ノ如ク記載スルモノトス

第五號様式

(此帳簿ハ目限リ納期毎ニ調製スヘシ)

何年度畑租
徵稅簿

廳名

第一期畑租						何郡 甲 村	
年月日	摘要	調定額	減額	收入額	缺損	未	清
六月十五日	納額ノ達ヲ受ク	三④千圓。				三④千圓。	
七月三十日	領收證檢印			五⑤百圓。		貳千五百圓。	
八月十日	同			千⑥圓。		千五百圓。	
八月二十一日	何々ニ依リ減		百⑦圓。			千四百圓。	
九月一日	領收證檢印			千⑧四百圓。		完	結

附錄 國稅徵收法施行細則

第一期畑租		何郡乙村	
年月日	摘要	調定額	減額
六月十五日	納額ノ達ヲ受ク	千五百圓	
八月三十一日	領收證檢印		千圓
八月三十一日	何々ニ依リ増額ノ分納額ノ達ヲ受ク	百圓	
九月二日	領收證檢印		四百圓
九月二十日	滯納處分ノ末追徴		百圓
九月二十日	同上缺損		百圓
			完結
			千五百圓
			五百圓
			六百圓
			二百圓

第六號様式

何年度何税(隨時收入)

(此帳簿ハ目限リ半年毎ニ調製スヘシ)

徵稅簿

廳名

何年度何税(目)			
調定額	額收	入	納稅
何月何日納額ノ達ヲ受ク 金拾圓	何月何日領收證檢印	何郡何村	何郡何村
何月何日同上 金七圓	何月何日同上	何郡何村	何郡何村

何廳明治何年度第何期又ハ前後半													
科目 項目		調定額		收入 濟 額				缺 損 額		收 金			
				納期限迄 收入ノ分		納期限後收 入ノ分							
何々	何々	円	錢	円	錢	円	錢	円	錢	円	錢		
			
										明治	年	月	日
										收入官吏官			

年分	
入 未 濟 額	
員 事 由	
發 印	
氏名	

第 何 號
(此號ハ年度中本書ノ
ミノ順ヲ追フモノトス)

第 七 號 樣 式

明 治 何 年 度

收入額 收入未濟額 缺損額 報告書

何 稅
何 稅

何 廳

「備考」
「各稅ノ內納期限ノ同一ナルモノハ之ヲ一表中ニ記載スヘシ」
「内ハ朱書」

沖繩縣及東京府管轄小笠原島等ノ國稅徵收方勅令第四百一十一號
明治廿二年十二月廿八日
沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ハ會計法實施後左ノ各條ノ外ハ從來ノ慣例ニ依ルヘシ

第一條 納稅人ハ税金沖繩縣酒類出
港稅ヲ除クヲ金庫ニ拂込ニ金庫ヨリ交付シタル別符附領收證ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

第二條 國稅品ハ納稅人ヨリ直ニ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 前條國稅品ハ會計法規ニ依リ收入官吏之ヲ取扱ヒ其賣却代金ヲ領收シテ金庫ニ拂込ムヘシ但稅品ノ會計ハ本稅所屬ノ年度ニ依ル

諸收入收納取扱順序大藏省訓令第六十六號
明治二十二年十一月二十二日

諸收入收納取扱順序左ノ通相心得明治二十三年四月一日ヨリ施行スヘシ

第一條 北海道廳及府縣廳ハ此順序ニ據リ各省ノ管理ニ屬セサル租稅外ノ諸收入ノ收納ヲ取扱フヘシ

第二條 各省ノ管理ニ屬セサル租稅外ノ諸收入ハ率子左ノ如シ

第一 免許料ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分

第二 手數料ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分

第三 囚徒工錢收入(北海道及府縣監獄ノ分)

第四 官有物貸下代及拂下代(北海道廳府縣ニ於テ貸下拂下ヲナシタル分)

第五 懲罰及沒收金ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分

第六 辨償金ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分

第七 雜入ノ内北海道廳府縣ノ取扱ニ係ル分

右ノ外各省大臣ノ命令ニ依ラス北海道廳府縣ニ於テ直ニ收入ヲ執行スルモノ

第二條 北海道廳長官府縣知事ハ諸收入ヲ調定シ各納人ニ對シ本訓令附屬書式ノ納入告知書ヲ發シ各納人ヲシテ現金ヲ收入官吏又ハ金庫ニ納付セシムヘシ但現金ヲ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發セサルモ妨ケナシ

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ島司郡長警察署長典獄若クハ收稅部出張所長ニ委任シテ前條ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第五條 北海道廳長官府縣知事ノ委任ヲ受ケ諸收入ヲ調定シタル官吏ハ納入告知書ヲ發シタルモノト發セサルモノトノ區分ヲナシ每半月分ノ調定濟報告書ヲ調製シ毎月十六日及翌月一日ニ之ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ但島司ノ管理區域内ニ

附錄 諸收入收納取扱訓序

於テハ本文ノ報告書ヲ島司ニ送付スヘシ

第六條 北海道廳長官府縣知事又ハ島司ハ前條ノ報告ヲ受ルトキハ歲入簿調定濟ノ欄ニ之ヲ登記スヘシ

第七條 納入告知書ハ收入官吏ニ送付シ收入官吏ヲシテ納入ニ交付セシムヘシ

第八條 收入官吏ハ納入告知書ノ送付ヲ受ルトキハ明治二十二年大藏省令第十一號第十四號書式ノ收入簿調定濟ノ欄ニ其金額ヲ登記シ納入告知書ハ直ニ納入ニ送付スヘシ但第三條但書ノ場合ニ於テハ其領收スヘキ金額ノ確定セントキハ收入簿調定濟ノ欄ニ其金額ヲ登記スヘシ

第九條 納入告知書ハ納入ヲシテ納金ト共ニ持參セシメ收入官吏又ハ金庫ニ於テハ納入告知書ニ照シテ現金ヲ收納シ收入官吏ハ明治二十二年大藏省令第十一號第二號書式ノ領收證ヲ發シ金庫ハ本訓令附屬書式ノ領收證ヲ發スヘシ

第十條 納入ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシメタルトキハ收入官吏ハ會計規則第二十九條ニ據リ金庫ノ發シタル領收證ヲ檢シ明治二十二年大藏省令第十一號第十四號書式ノ收入簿ニ收入濟ノ記入ヲナシ領收證書式ノ場所ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ヲ納入ニ返付スヘシ

第十一條 收入官吏現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十一號第十四號

書式ノ收入簿ニ收入濟ノ記入ヲナシ同令第三號書式ノ現金拂込書ヲ製シ現金ニ添ヘ出納官吏現金取扱規則第十五條若クハ第十六條ニ定メタル期限ニ之ヲ金庫ニ送付スヘシ但出納官吏現金取扱規則第十七條ニ據リ監守證ヲ以テ拂込ノ手續キヲナス場合ニ於テハ拂込書ヲ要セス大藏大臣ヘ報告濟ノ旨ヲ記シタル送付書(送付書ノ式ハ適宜)ヲ監守證ニ添ヘテ金庫ニ送付スヘシ

第十二條 收入官吏其拂込金ニ對シテ金庫ヨリ領收證ヲ得ルトキハ三日以内月末ノ分ハ翌月一日ニ北海道廳長官府縣知事ニ之ヲ送付スヘシ但島司ノ管理區域内ニ於テハ本文ノ領收證ヲ島司ニ送付スヘシ

第十三條 北海道廳長官府縣知事又ハ島司ハ收入官吏ノ送付シタル金庫ノ領收證ヲ檢シ收入檢定簿ヲ備ヘテ之ニ登記シ領收證書式ノ場所ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ收入官吏ニ返付スヘシ

第十四條 島司ニ於テ收入官吏ノ送付シタル領收證ヲ檢スルトキハ毎月其檢定報告書ヲ製シ翌月七日マテニ之ヲ府縣知事ニ送付スヘシ

第十五條 收入官吏ノ毎月收入報告書ニハ左ノ書類ヲ添ヘ翌月七日マテニ之ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ但島司ノ管理區域内ニ於テハ本文ノ報告書ヲ島司ニ送付スヘシ

諸收入收納取扱訓序

- 第一 納入告知書ノ金額納期日細別表
 - 第二 收入金月計對照表
 - 第三 缺損金明細書
 - 第四 納期日後未納收入事由明細書
- 右ノ外北海道廳長官府縣知事ニ於テ必要ト見認ルモノ
- 第十六條 島司ニ於テ前條報告書ノ送付ヲ受ルトキハ三日以内ニ之ヲ取纏メ明治二十二年大藏省令第十一號第五號書式ノ毎月收入總報告書式ニ準シ集計表ヲ製シテ該報告書及月計對照表ト共ニ之ヲ府縣知事ニ送付スヘシ但送付スヘキ報告書一通ニ過キサルトキハ集計表ヲ要セス該報告書ニ添書シテ送付スヘシ
 - 第十七條 北海道廳長官府縣知事ハ收入官吏ノ收入報告書ヲ取纏メ明治二十二年大藏省令第十一號第五號書式ニ準シ毎月收入總報告書ヲ製シ左ノ書類ト共ニ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ
 - 第一 收入官吏ノ毎月收入報告書
 - 第二 島司ノ集計表
 - 第三 收入金月計對照表
- 右ノ外調査上必要トスルトキハ其都度大藏省主任官ヨリ書類ノ送付ヲ請求スルコトア

ルヘシ

第十八條 北海道廳長官府縣知事島司ハ明治二十二年大藏省令第十一號第十五號書式ニ準シタル歳入簿ヲ備フヘシ

第十九條 北海道廳長官府縣知事島司ノ備フヘキ諸收入調定元帳收入檢定簿收入未濟金缺損金過誤納拂戻金整理簿其他收入事務整理上必要ナル帳簿ハ便宜ノ式ニ依テ設置スヘシ

第二十條 本訓令ニ據リ調製スヘキ調定濟報告書檢定報告書納入告知書ノ金額納期日細別表缺損金明細書納期日後未納收入事由明細書ノ書式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

「」ノ内及印章ハ孰モ朱

甲號書式 「(金庫へ納入ノ場合ニ用ユルモノ)」
 用紙適宜 縱四寸五分ノモノニ一枚 縱四寸五分ノモノ一枚 接續
 横三寸三分

「備考」

領收證書用紙ニハ納入ノ金額納入ノ年度種類等總テ納入告知書發行廳ニ於テ記入スルモノトス

第	「何」	號	「何」	年	度	「何郡何村」	「何某」納
納	「收	入	官	吏	官	氏	名」
	「主	管	廳				

附錄 諸收入收納取扱順序

入告知書

元帳
割印

一金何程

但(何年何月ヨリ何月マテノ分何々貸付料又ハ何々
々々費拂代ト云フカ如ク收入金ノ目的ヲ記ス)

右何年何月何日限り何々金庫へ納入スヘシ

明治何年何月何日

納入告知書發行者官氏名

印

金庫

割印

第

何

年

度

何郡何村

何某納

收

入

官

吏

官氏名

扱

主

管

廳

收入官
吏檢印

一金何程

金庫取
扱主任
印

但(收入ノ目的ヲ記入スルコト前葉ニ同シ)

領收證書

右領收候也

明治何年何月何日

何々金庫印

金庫

割印

第

何

年

度

何郡何村

何某納

經

常

(臨

時)

何々(款)

何々(項)

何々(目)

收

入

官

吏

官氏名

扱

主

管

廳

一金何程

明治何年何月何日何々金庫へ納入

乙號書式(收入官吏へ納入ノ場合ニ用ユルモノ)

用紙適宜 寸法甲號書式ニ同シ

第

何

年

度

何郡何村

何某納

附錄 諸收入收納取扱順序

納入告知書

一金何程

元帳
割印

但何々(收入ノ目的ヲ記入スルコト甲號書式ニ同シ)

右何年何月何日限り收入官吏官氏名へ納入スヘシ

明治何年何月何日

納入告知書發行者官氏名

印

收入官吏ノ監守證取扱手續

大藏省訓令第七十三號
明治廿二年十二月廿一日

收入官吏
金庫出納役

明治二十二年十月大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則第十七條ニ據リ收入官吏ヨリ金庫へ監守證ノ送付ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ
一金庫ハ出納官吏現金取扱規則第十七條ニ據リ收入官吏ヨリ監守證ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ其收入官吏所在地ノ仕拂官吏ニ送付スヘキ仕拂豫算ノ金額アルトキ又ハ

當時該地ノ債主ニ仕拂フヘキ仕拂命令ヲ受ルトキハ同規則第十八條ニ據リ監守證ヲ以テ爲替拂トナスヘシ

二金庫ハ收入官吏ヨリ監守證ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ其收入官吏所在地ノ仕拂官吏ニ送付スヘキ仕拂豫算ノ金額ナキカ又ハ當時該地ノ債主ニ仕拂フヘキ仕拂命令ヲ受クルコトナキカ又ハ前項ニ據リ爲替拂ヲナスモ尙監守證ノ金額ニ殘餘アルトキハ受取人ヲ派出シテ收入官吏ヨリ現金ヲ受取ルヘシ但在外國ノ場合ニ於テハ大藏大臣ヨリ其都度收入官吏ニ指揮スヘシ

三金庫ヨリ派出シタル受取人ニハ明治二十二年十二月大藏省訓令第七十二號書式第一號ノ領收證書及收入官吏ヨリ送付シタル監守證ヲ携帶セシメ現金ト引替ヘシムヘシ
四金庫ニ於テハ適宜監守證記入簿ヲ設置キ收入官吏ヨリ監守證ノ送付ヲ受ケタルトキハ各收入官吏毎ニ之ヲ記入シ爾後該監守證ヲ拂出シタルトキハ其年月日等ヲ備考ニ記入スヘシ

前金渡概算ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程 大藏省令第十六號
明治二十二年十二月二十八日

附錄 前金渡概算ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程 百六十五

會計法第二十三條但書ニ依リ前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スルノ取扱規程ヲ定

前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程

- 第一條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要スルモノアルトキハ仕拂命令官ヨリ返納人ニ對シ返納告知書ヲ發スヘシ
- 第二條 返納人ハ返納告知書ニ現金ヲ添へ其返納告知書ニ指定シタル金庫ニ之ヲ拂込ニ金庫ノ別符付領收證ヲ得直チニ領收證ノ檢印及ヒ別符ノ切離ヲ仕拂命令官ニ請求スヘシ
- 第三條 仕拂命令官金庫ノ領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シタルトキハ定額戻入ノ要求ヲナサンコトヲ本屬大臣ニ申立ヘシ
- 第四條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要セサルモノハ通常歳入金取扱手續ニ依リ返納人ヲシテ金庫又ハ收入官吏ニ納入セシムヘシ
- 第五條 本規程ニ依リ發スル返納告知書ハ左ノ書式ニ依リ調製スヘシ

〔備考〕

「領收證書用紙ニハ返納ノ金額番號定額戻入ヲ要スヘキ年度科目等返納告知書發行廳ニ於テ記入スルモノトス」

用紙適宜 縦四寸五分ノモノニ一枚 縦四寸五分ノモノ一枚 接續 横三寸三分 横二寸

返納告知書

第 [何] 號 [某] 年 度 所 管 廳	返納人 [何] [某]
雜部	
一金 [何] 程	
右 [何] 年 [何] 月 [何] 日 限リ [何] 地 金庫 へ 返納 スヘシ	
明治 [何] 年 [何] 月 [何] 日	仕拂命令官 [官] 氏 名 [印]

金庫 割印

第 [何] 號 [某] 年 度 所 管 廳	返納人 [何] [某]
雜部	

附錄 前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程 百六十七

右領收候也

明治何年何月何日

〔何地金庫〕印

仕拂命令
官檢印

金庫
割印

〔金〕何程

金庫取扱
官檢印

領收證書

第〔何〕號〔某〕年度〔所〕管〔應〕返納人〔某〕

經常〔臨時〕何々〔款〕何々〔項〕何々〔目〕定額要ス

〔金〕何程

明治何年何月何日何地金庫へ返納

會計主務官心得 大藏省訓令第十八號
明治廿三年二月廿七日

會計主務官心得左ノ通り相定ム

會計主務官心得

第一章 總則

- 第一條 會計主務官ハ國庫ノ事務ヲ取扱フ官吏ニシテ大藏大臣ノ命ヲ承ケ會計法第十
- 四條ニ依リ仕拂命令ノ法律命令ニ反スルコトナキヤヲ調定スルヲ以テ職務トス
- 會計主務官ハ專ラ仕拂命令ノ調定ヲ職務トスルモノニシテ明治十四年太政官第三十
- 六號達ヲ以テ定メラレタル會計主務官吏トハ異ナルモノトス
- 第二條 會計主務官ハ各省大臣所屬ノ官吏タリト雖トモ其職務執行ニ就テハ各省大臣
- ニ對シ全ク獨立シ其干渉ヲ受クルコトナシ
- 第三條 會計主務官ハ會計法會計規則其他ノ命令ニ依リ付與セラレタル權限ヲ確守シ
- 仕拂命令官ノ權限ヲ犯スコトナク事務ノ滯滞ヲ生セサル様注意スヘシ
- 第四條 會計主務官ノ職務ハ會計法第二十九條ニ依リ仕拂命令官ト相兼ヌルコトヲ得
- ス然レトモ會計主務官ノ職務ヲ執ル官吏ニシテ同時ニ各省會計ノ事務ニ從事スルモ
- 妨ケナシ

附錄 會計主務官心得

第五條 會計規則第五十條ノ中央會計主務官ノ職務ハ各省本廳ノ經費ニ關スル仕拂命令ヲ調定スル會計主務官ニ於テ取扱フモノトス

第二章 帳簿

第六條 會計主務官ハ會計規則第百十六條ニ依リ明治二十二年大藏省令第十一號ニ定メタル第十六號書式ノ支出簿ヲ備フヘシ

本條ノ帳簿ハ會計主務官ノ爲メニ最モ大切ナルモノニシテ仕拂命令ノ調定支出ノ報告支出ノ證明ヲナスハ皆此帳簿ニ依ルモノトス

第七條 各省中央會計主務官ハ支出簿ノ外ニ會計規則第百十七條ニ依リ明治二十二年大藏省令第十一號ニ定メタル第十七號書式ノ歳出簿ヲ備フヘシ

本條ノ帳簿ハ會計規則第百十三條ニ依リ大藏省主計局ニ備フル所ノ主計簿歳出ノ部ト連絡ヲ有スルモノトス

第八條 支出簿ニハ明治二十二年大藏省令第十一號ニ定メタル第十六號書式備考第二ニ示ス如ク第一ニ大藏大臣ヨリ令達アリタル仕拂豫算額ヲ登記スヘシ

此仕拂豫算額ノ令達ハ明治二十二年大藏省令第十一號ニ定メタル第一號書式備考第二ニ示ス如ク會計規則第十一條第十二條ニ依リ各省大臣ヨリ大藏大臣ニ送付シタル計算書二通ノ内一通ヲ大藏大臣ヨリ會計主務官ニ送付スルノ手續トス

仕拂豫算額ノ増減ハ前項ノ手續ニ依リ大藏大臣ヨリ令達アルヘキニ付其令達ヲ得タルトキ登記スヘシ

會計規則第三十五條ニ依リ仕拂命令官ヨリ仕拂命令ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調定シ明治二十二年大藏省令第十一號ニ定メタル第十六號書式備考第三ニ示ス如ク支出簿仕拂命令調定濟額ノ欄内ニ登記スヘシ

會計規則第六十三條ニ依リ大藏大臣ニ於テ定額ノ戻入ヲ檢視シタルトキハ戻入取扱規程ハ明治二十二年大藏省令第十六號ニ依ル明治二十二年大藏省令第十一號ニ定メタル第十一號書式ニ準シ定額戻入令達書ヲ作り之ヲ會計主務官ニ送付スヘキニ付會計主務官ハ明治二十二年大藏省令第十一號ニ定メタル第十六號書式備考第四ニ示ス如ク支出簿仕拂命令調定濟額ノ欄内ニ定額戻入ノ金額ヲ登記スヘシ

第九條 明治二十二年勅令第九十五號會計年度開始前現金支出規則ニ依リ大藏大臣ニ於テ年度開始前支出ヲ檢視シタルトキハ其令達書ヲ作り之ヲ會計主務官ニ送付スヘキニ付會計主務官ハ令達書ノ金額ヲ支出簿開始セサル年度ノ分仕拂豫算額ノ欄内ニ登記シ追テ仕拂命令官ヨリ仕拂命令ノ送付ヲ受ケタルトキ大藏大臣令達ノ金額ニ照シテ調定シ其調定濟額ヲ支出簿ニ登記スヘシ

第十條 支出簿ノ詳細ヲ明カニスル爲メ要スル所ノ補助簿ハ明治二十二年大藏省令第

十一號ニ定メタル第十六號書式備考第五ニ示ス如ク會計主務官ニ於テ適宜之ヲ設クヘキモノトス今左ニ凡ソ必用ナル補助簿ノ種類ヲ示ス

- 一 概算渡前金渡繰替拂ノ帳簿 此帳簿ニハ法律勅令ニ依リ概算渡前金渡繰替拂ヲ許サレタル經費ノ支出ヲ登記シ其精算未精算ヲ調査スルノ用ニ供スルモノトス
 - 二 歳出目別ノ帳簿 此帳簿ハ各項目中各目ヲ區分シ經費ノ支出ヲ登記スルモノトス
- 右ノ外明治二十二年十一月會計検査院ノ定メタル支出證明規程ニ依リ會計主務官ノ證明スヘキ諸計算ヲ作ルニ必要ナル帳簿

第十一條 中央會計主務官ノ備フル歳出簿ニハ歳計豫算ニ依リ各省所管經費各款各項ノ定額ヲ歳出簿定額ノ欄内ニ登記スヘシ

會計規則第五十七條ニ依リ大藏大臣ニ於テ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越ノ令達書ヲ作リ中央會計主務官ニ送付スヘキニ付中央會計主務官ハ其繰越金額ヲ歳出簿增加額ノ欄内ニ登記スヘシ

會計規則第二十二條ニ依リ第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキ及同規則第十九條ニ依リ大藏大臣ニ於テ第一豫備金支出ヲ承認シタルトキハ其令達書ヲ中央會計主務官ニ送付スヘキニ付中央會計主務官ハ其金額ヲ歳出簿增加額ノ欄内ニ登記スヘシ

歳出簿仕拂命令調定濟額ノ欄内ニハ中央會計主務官自身ノ作リタル支出報告書及ヒ他ノ會計主務官ヨリ送付ヲ受ケタル支出報告書ニ據リ其報告書仕拂命令調定濟額ノ欄内本月分ノ仕拂命令調定濟金額及ヒ定額戻入金額ヲ登記スヘシ

第三章 仕拂命令調定

第十二條 仕拂命令ニハ三種アリ即チ左ノ如シ

第一 通常ノ仕拂命令

第二 集合仕拂命令

第三 現金前渡仕拂命令

(第一) 通常ノ仕拂命令ハ一箇ノ債主ニ直接ニ現金ヲ交付スル爲ニ發スルモノトス
(第二) 集合仕拂命令ハ二人以上ノ債主ニ直接ニ現金ヲ交付スル爲ニ發スルモノトス

(第三) 現金前渡仕拂命令ハ會計法第十五條第二項ニ依リ官吏又ハ政府ノ命シタル銀行會計規則第四十二條ヲ見ヨニ現金ヲ交付シ更ニ右官吏又ハ銀行ヲシテ政府ノ債主ニ仕拂ヲ爲サシムルタメニ發スルモノトス

第十三條 仕拂命令ノ様式ハ明治二十二年大藏省令第十一號ヲ以テ定メタル第六號書式甲乙丙ノ三種ニシテ各々輪廓ノ模様ヲ異ニセリ

第十四條 會計規則第三十五條ニ依リ仕拂命令官ヨリ仕拂命令ニ證書類ヲ添ヘ之ヲ

會計主務官ニ送付シタルトキハ先ツ何年度所屬ニシテ何種ノ仕拂命令ナルヤヲ見定メ左ノ順序ニ從ヒ調定ヲ爲スヘシ

第一 仕拂命令ノ様式ニ違フコトナキヤヲ調査スルコト

第二 仕拂命令ト按内仕拂命令トヲ照合シ年度科目金額其他記載ノ事項相違スル所ナキヤヲ調査スルコト

第三 支出簿仕拂豫算ノ殘額ト仕拂命令ノ金額トヲ照合シ仕拂豫算ニ超過スルコトナキヤヲ調査スルコト

第四 仕拂命令ト仕拂命令ニ添付セル證憑書類トヲ照合シ仕拂命令ニ依リ仕拂フヘキ經費ハ正當ニシテ仕拂ノ方法規則ニ違フコトナキヤ年度科目計算ニ誤ナキヤ其他法律命令ニ抵觸スルコトナキヤヲ調査スルコト

第十五條 前條第一第二ノ調査ヲナシ不都合ヲ發見スルトキハ直チニ仕拂命令ヲ仕拂命令官ニ返付シ改正ヲ求ムヘシ

前條第三ノ調査ヲナシ不都合ヲ發見スルトキハ直チニ仕拂命令ヲ仕拂命令官ニ返付シ改正ヲ求メ若シ仕拂命令官改正ヲ承諾セサルトキハ事由ヲ本屬大臣ニ申立ヘシ而シテ本屬大臣會計主務官ノ意見ニ同意セサルトキハ會計主務官會計規則第三十七條第二項但書ニ依リ事由ヲ具シ大藏大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

前條第四ノ調査ヲナシ不都合ヲ發見スルトキハ直チニ仕拂命令ヲ仕拂命令官ニ返付シ改正ヲ求メ若シ仕拂命令官改正ヲ承諾セサルトキハ事由ヲ本屬大臣ニ申立ヘシ而シテ本屬大臣會計主務官ノ意見ニ同意セサルトキハ會計主務官會計規則第三十七條第二項ニ依リ特命調定ヲナシ直チニ事由ヲ詳具シ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十六條 本訓令第十四條第四ノ調査ヲナストキ通常ノ仕拂命令ハ左ノ順序ニ依ルヘシ

第一 仕拂命令ニ依リ仕拂ハントスル經費ハ債主權ノ確定シタルモノナルヤ否ヤヲ調査シ若シ債主權ノ未確定ノモノナルトキハ何レノ法律勅令ニ依リ概算渡前金拂ヲナスヤヲ確カムヘシ

第二 仕拂命令ニ依リ仕拂ハントスル經費繰替拂ナルトキハ何レノ法律勅令ニ依リ繰替拂ヲナスヤヲ確カムヘシ

第三 各年度ニ屬スル經費ニシテ會計規則第四十四條ニ依リ翌年度四月一日以後六月三十日マテニ發シタル仕拂命令ノ送付ヲ受ケタルトキハ其仕拂命令ニ依リ仕拂フ經費ハ年度内ニ債主權ノ確定シタルモノニ相違ナキヤヲ確ムヘシ

第四 過年度ノ支出ニ係ル仕拂命令ナルトキハ會計規則第六十條ニ依リ大藏大臣承認ヲナシタルトキ其令達書ヲ會計主務官ニ送付スヘキニ付之ニ照合スヘシ

附錄 會計主務官心得

百七十五

- 第五 仕拂命令ニ記入シタル年度ノ相當ナルヤヲ會計規則第二條ニ照シ調査スヘシ
- 第六 仕拂命令ニ記入シタル科目ノ相當ナルヤヲ仕拂豫算ノ科目ト證憑書トニ照シ調査スヘシ
- 第七 仕拂命令ニ記入シタル金額ノ違算ナキヤヲ確カムル爲メ證憑書ニ照シ計算スヘシ
- 第八 正當ニ政府ノ經費ナルヤヲ證憑書ニ照シ調査スヘシ
- 第九 政府ノ工專及物件買入借入ニ係ル經費ノ仕拂命令ナルトキハ競争契約ナルヤ隨意契約ナルヤヲ證憑書ニ照シ調査シ隨意契約ナルトキハ會計法第二十四條但書何レノ場合ニ該當セルヤヲ證憑書ニ照シ確カムヘシ
- 第十 會計規則第六十七條ニ依リ工專ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスル仕拂命令ナルトキハ會計規則第六十七條ノ制限ヲ超過スルコトナキヤヲ證憑書ニ照シ確カムヘシ
- 第十七條 本訓令第十四條第四ノ調査ヲ爲ストキ集合仕拂命令ハ左ノ順序ニ依ル
 - 第一 會計規則第三十三條但書六種費目中何レニ該當スルヤヲ確カムヘシ
 - 第二 金額氏名表ノ金額ト仕拂命令ノ金額ト相違ナキヤヲ確カムヘシ

- 第三 仕拂命令ニ記入シタル年度ノ相當ナルヤヲ會計規則第二條ニ照シ確カムヘシ
- 第四 仕拂命令ニ記入シタル科目ノ相當ナルヤヲ仕拂豫算科目ト證憑書トニ照シ確カムヘシ
- 第五 仕拂命令ニ依リ仕拂ハントスル經費ハ債主權ノ確定シタルモノナルヤ否ヤヲ調査シ若シ債主權未確定ノモノナルトキハ何レノ法律勅令ニ依リ概算渡前金拂ヲナスヤヲ確カムヘシ
- 第六 金額氏名表ノ金額氏名ニ相違ナキヤヲ證憑書ニ照シ確カムヘシ金額ハ計算ニ付シ確カシムヘシ
- 第七 仕拂命令ニ依リ仕拂ハントスル經費ハ正當ニ政府ノ經費ナルヤヲ證憑書ニ照シ確カムヘシ
- 第十八條 本訓令第十四條第四ノ調査ヲ爲ストキ現金前渡仕拂命令ハ左ノ順序ニ依ル
 - 第一 會計法第十五條第二項何レノ場合ニ該當スルヤヲ確カムヘシ
 - 第二 政府ノ命シタル銀行ニ現金ヲ交付セントスル仕拂命令ナルトキハ會計規則第四十二條ノ範圍内ナルヤヲ確カムヘシ
 - 第三 會計規則第三十九條ノ各項ニ照シ仕拂命令ノ金額同條ニ定メタル制限ニ超

過スルコトナキヤ又必用ナルヨリモ餘分ノ現金前渡ナルコトナキヤヲ確カムヘシ

第四 一度現金ヲ前渡シタル主任官吏ニ更ニ現金ヲ前渡セントスル仕拂命令ハ會計規則第四十條ニ照シ同條ニ定メタル制限ニ超過スルコトナキヤヲ確カムヘシ
第五 仕拂命令ニ記入シタル年度ノ相當ナルヤヲ會計規則第二條ニ照シ確カムヘシ

第六 仕拂命令ニ記入シタル科目ノ相當ナルヤヲ仕拂豫算ノ科目ト證憑書トニ照シ確カシムヘシ

第十九條 仕拂命令ノ調査ヲナスニ必要ナル證憑書ハ會計規則第三十五條ニ依リ仕拂命令官ヨリ會計主務官ニ送付スヘキ義務アルモノニ付若シ證憑書不完全ナルトキハ會計主務官ハ仕拂命令官ニ向テ事實ヲ確カムルニ充分ナル證憑書ヲ送付セントコトヲ要求スヘシ

第二十條 本訓令第十六條第十七條ノ調査ヲ爲スニ必要ナル證憑書ノ種類ハ凡ソ左ノ如シ

第一 債主ノ請求書若クハ請求書ニ代ハルヘキ書類
第二 規則又ハ契約ニ依リ一定シタル經費ニシテ債主ノ請求書ヲ徴セスシテ仕拂

命令ヲ發スルモノハ規則書又ハ契約書及ヒ負債ヲ確カム得ヘキ書類

第三 一項中數目ヲ合セタル仕拂命令ニシテ各目ノ金額分明ナラサルモノハ各目ノ仕譯書

第四 工事及物件ノ購買借入ニ關スル仕拂命令ハ其各種契約書其他事實ノ確實ヲ證スル書類

第五 會計規則第六十七條ニ依リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスル仕拂命令ナルトキハ同條ニ依リ検査ノ官吏ノ作リタル調書

第六 明治二十二年十一月會計検査院ニ於テ定メタル支出證明規程第十一條第十二條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條ノ事項ヲ調査スルニ必要ナル書類

第二十一條 本訓令第十八條ノ調査ヲ爲スニ必要ナル證憑書ノ種類ハ凡ソ左ノ如シ

第一 會計法第十五條第二項ノ第一ニ當ル場合ハ國債元利ノ計算ヲ明ニセル書類
第二 會計法第十五條第二項ノ第二第三第四第五第六第七第八ニ當ル場合ハ經費支出ノ必要ヲ確カムヘキ書類

第二十二條 仕拂命令ノ調定ヲ了リ會計主務官之ヲ正當ト認メタルトキ若クハ會計規

附錄 會計主務官心得

則第三十七條第二項ニ依リ特命調定ヲ爲シタルトキハ式ノ如ク支出簿ニ登記シ然ル後チ仕拂命令ト案内仕拂命令トヲ切離シ受取人ヨリ領收證書ヲ徴シ仕拂命令ヲ受取人ニ交付シ同時ニ案内仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ

支出簿ニ登記セサル前ニ仕拂命令ヲ受取人ニ交付シ若クハ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セサル前ニ案内仕拂命令ヲ金庫ニ送付スルトキハ行違ヲ生シ易キヲ以テ必ス前項ノ手續ヲ怠ルヘカラス

毎月末日受取人ニ交付スル仕拂命令ノ案内仕拂命令ハ其日ノ開庫時間内ニ金庫ニ到着スル様發送スヘシ若シ案内仕拂命令ノ送付方遅延シ金庫ニ於テ之ヲ翌月ノ計算ニ組込トキハ月計對照表上差違ヲ生スヘキニ付必ス本項ノ注意ヲ怠ルヘカラス

第二十三條 會計規則第三十三條但書及第三十六條但書ニ依リ集合仕拂命令ヲ以テ價主ニ仕拂ヲナストキ又ハ仕拂命令ヲ當テタル金庫即チ仕拂命令官所在地ノ金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ爲スタメ送金ヲ要スルトキハ式ノ如ク支出簿ニ登記シ集合仕拂命令ハ其本命令案内仕拂命令及金額氏名表共又通常ノ仕拂命令ハ其本命令及案内仕拂命令共之ヲ金庫ニ送付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ會計主務官ハ本訓令附屬書式ノ領收證書用紙ニ式ノ如ク記入捺印シ之ヲ受取人ニ交付シ金庫ハ明治二十二年大藏省訓令第七十二號金庫出納事務規程

第十五條第十六條ニ依リ本項ノ領收證書ト引替ニ現金ヲ受取人ニ交付シタル後チ其領收證書ヲ會計主務官ニ送付スルモノトス

前項ニ依リ金庫ヨリ領收證書ヲ會計主務官ニ送付シタルトキハ元ト切離シタル領收證書ノ原符ニ照シ「何年月日仕拂濟」ノ印ヲ原符ニ捺シ金庫出納事務規程第十六條第二項ノ領收證書ハ本訓令第二十四條第二十五條ニ依リ之ヲ金庫ニ返付スヘシ

本條第一項ニ依リ集合仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタルトキハ金庫ヨリ其領收證書ヲ徴スヘシ此領收證書ハ會計検査院ニ向テ支出ノ證明ヲナストキハ正當受取人ノ領收證書ニ代ハリ證憑トナルモノトス但シ支出ノ證明ヲナストキハ別ニ集合仕拂命令ニ添附セル金額氏名表ノ謄本ヲ作リ之ヲ添ユヘシ

第二十四條 金庫出納事務規程第七十二條第八十六條第九十七條ニ依リ金庫ヨリ歲出金月計對照表現金交付濟仕拂命令及同事務規程第十六條ノ受取人ノ領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ調査シ不都合ナキトキハ金庫出納事務規程第三十四號書式ニ示ス如ク月計對照表ニ記入捺印シ甲號表ハ之ヲ留置キ乙號表ハ仕拂濟ノ仕拂命令及受取人領收證書ト共ニ明治二十二年大藏省訓令第七十四號ニ依リ三日以内ニ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第二十五條 金庫出納事務規程第七十四條第八十八條第九十七條ニ依リ金庫ヨリ歲出

任拂未済繰越金支出月計對照表現金交付仕拂命令及同事務規程第十六條ノ受取人ノ領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ調査シ不都合ナキトキハ金庫出納事務規程第三十六號書式ニ示ス如ク月計對照表ニ記入捺印シ仕拂濟ノ任拂命令及受取人領收證書ト共ニ三日以内ニ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第四章 支出報告

第二十六條 會計規則第四十九條ニ依リ會計主務官ノ調製スル毎月支出報告書ハ毎月末日支出簿ノ締高ニ依リ明治二十二年大藏省令第十一號ニ定メタル第七號書式ニ從ヒ之ヲ調製シ本屬大臣ノ定メタル期限ニ左ノ參照書類ト共ニ之ヲ中央會計主務官ニ送付スヘシ

一 歳出金月計對照表 甲號表
分

二 前項ノ外大藏省主計局長及中央會計主務官ヨリ要求スル參照書類

第二十七條 會計規則第五十條ニ依リ中央會計主務官ノ調製スル毎月支出總報告書ハ中央會計主務官自身ニ作リタル毎月支出報告書及他ノ會計主務官ヨリ送付ヲ受ケタル毎月支出報告書ノ金額ヲ集計シ 集計ノタメ補助簿
設クルヲ便トス 明治二十二年大藏省令第十一號ニ定メタル第八號書式ニ從ヒ之ヲ調製シ會計規則第五十條ノ期限内ニ左ノ參照書類ト共ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

一 毎月支出報告書 中央會計主務官ノ作リタル分及他會計主務官ヨリ送付ヲ受ケタル分トモ

二 歳出金月計對照表 甲號表ノ分ニシテ中央會計主務官自身ノ分及他會計主務官ヨリ送付ヲ受ケタル分トモ

三 前二項ノ外大藏省主計局長ヨリ要求スル參照書類

第二十八條 會計主務官ハ毎月支出報告書及毎月支出總報告書ノ送付方定期ニ後レサル様嚴密ニ注意スヘシ萬一其送付方定期ニ後ル、トキハ其事故ヲ取調會計主務官ヲ相當處分ニ及フコトアルヘシ

會計主務官ヨリ中央會計主務官ニ送付スル毎月支出報告書定期ニ後レタルトキハ遅延ノ事由ヲ具シ中央會計主務官ヨリ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

毎月支出報告書ノ送付定期ニ後レタルカ爲メ毎月支出總報告書ノ提出定期ニ後ル、ノ恐アルトキハ中央會計主務官ハ既著ノ毎月支出報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ作り其旨ヲ大藏大臣ニ報告シ延著ノ毎月支出報告書ハ之ヲ取纏メ毎月支出總報告書ノ式ニ準シ追加報告書ヲ作り大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 支出證明

第二十九條 會計規則第四十四條ノ期限經過スルトキハ會計主務官ハ直チニ支出簿ヲ締切リ會計規則第九十五條ノ計算書ノ調製ニ著手スヘシ

本條計算書ノ書式ハ明治二十二年十一月會計検査院ニ於テ定メタル支出證明規程第

附錄 會計主務官心得